朝鮮總督府土管工場
朝鮮皮革株式會社 御用達

加藤運送店

朝鮮永登浦堂山里

中六

大塚醬油釀造所
朝鮮永登浦
電話二〇番

各地特約店

京城明治町一丁目 群山港 大塚支店 中柴商店
京城本町四丁目 平壤大和町 前田酒店 大塚出張店
京城本町二丁目 安東縣新市街 佐藤枚商店 大塚出張店
京城明治町一丁目 竜山元町 山邑支店 兼古商店
仁川京町 木浦 高雄支店 守田商店
釜山南濱町 元山港 大塚出張店 渡邊商店

中七

御料理　朝鮮永登浦
仕出し　○　亭

朝鮮鐵道運輸聯合會加盟店
朝鮮永登浦驛前
㊁　今井運送店

永登浦之部

永登浦一班

永登浦は京畿道始興郡にありて漢江の對岸なる一小驛に過ぎずと雖も京釜、京仁の分岐点たるを以て漸次發展の途にあり人口内地人六百五十餘人朝鮮人二千二百八十餘名を有し明治三十八年十月一日居留民規則により其の認可を得て居留民總代役場を設立したり此地は元、京仁線の一驛なりしが京釜鐵道の開通するに及び其分岐驛として京城若くば釜山より仁川に赴かんとするものは必ず此驛に於て乘換をなさゞるべからざるなり又廣渺數里に亘れる肥沃の平野を控ゆるを以て農業に適し京城龍山に供給する蔬菜の栽培地としてその經營盛なり而して京城及仁川に近きのみならず漢江の水利により將來は發展を見るべし更に工業地として最も適當の地位を占む彼の官營なる永登浦土管工場に於て明治四十四年度中同十一月迄製出したるものは土管數四萬一千餘箇、瓦數四十一萬三千餘箇に上る此外個人の經營に係るものは朝

鮮皮革株式會社、大塚醬油釀造所、志岐組煉瓦工場、長嶋煉瓦工場あり此の地の產物としては煉瓦、瓦、土管、醬油、農作物等あり官公署には郵便局、居留民役場、警察署、地方金融組合、京城監獄永登浦分監、小學校等あり

三幕寺

始興驛の東一里半の地に冠嶽山あり山は始興郡の東方に連亘する小脈中の最高峰にして南端に聳ゆる三聖山は海拔三千尺の峻峰なり峯上には漢の宣帝五鳳五年（千九百六十餘年前）の建立に係る三幕寺と稱する古刹なり僧侶常に三十人居住す山上に登れば遠く仁川港を一眸の下に收め南漢山及び北漢山と相對し漢江の流れは山脚を圍繞して風光絕佳なり

虎伏寺

冠嶽山諸峯中の袴芝山上にあり周圍青苔に包まれたる城壁あり中に長さ十三間幅七間の池あり壬辰の役日本軍令部のありし所にして池は我が將士の飲料水を得るために開鑿したるものなりと

放鶴寺

永登浦驛を距る東三丁の小丘上漢江支流に臨むところに一亭あり明治三十六年韓國皇帝の建造に係る娛樂所にして帝の來遊毎に數多の鶴を放ちその高く翱翔するを觀覽し給ひて打興せられしに因り此の名あり

舊把撥里の陵墓

舊把撥里を西に距る一里にある龍頭里及び其の北方半里なる元頭里には朝鮮王后の陵墓多し龍頭里に在るものは敬陵（德宗の昭惠后）、昌陵（睿宗の安順后）、明陵（肅宗の仁顯后）、翼陵（仁惠后）、弘陵（貞聖后）、順昌園（順懷世子）元頭里にあるものは禧陵（章敬后）、孝陵（仁宗の仁聖后）、膺陵（哲宗の仁后）昭慶園（照顯世子）等なり

鷺梁津之部

鷺梁津一班

鷺梁津は果川郡の東北隅に在る京釜鐵道の一驛にして東南に山を負ひ北は洋々たる漢江の流れを挿んで京城を望み龍山麻浦一帶の地は近く眸底に収むべし此の地陶土を產し古來陶器の製作地として名あり又煉瓦及び瓦製造工場あり且つ仁川水道の水源地にして漢江の河口遠く二十哩の彼方に給水す内地人の在住する者二百餘人あり

月波亭

鷺梁津驛の前面高丘にあり三百年前の建築に係り結搆精巧を極む元と韓國皇帝の別邸にして漢江の清流を瞰下し風景佳なり今は内地人の所有に帰す

南漢山

鷺梁津の東南一里半許にあり山上繞らすに城壁を以てす巍峩たる禿山にして山骨突起し禿絶壁高く累層し山路峻嶮なりと雖も北漢山の如く急ならず山頂は眼界豁然千山万峯一眸の下にあり杖を曳くもの俗襟爲めに拂はれ身は天仙の境にあるかと疑はしむ文祿の役後百年清太祖二萬の兵を率ひて半島を征するや國王難を南漢山城に避けたり之を要するに南北両漢山は共に緩急の際に於ける王朝の避難所たりされど今や物換り星移る幾春秋行宮の帝子孤魂冥々として今何くにかある遠く瞰下すれば大蛇の長江空しく流るゝのみ

鷺江書院

鷺梁津驛の近くに在り四忠祠之れなり景宗の世老少両論の黨爭激しく遂に老論派の金昌集、泰采、李頤命、李健命の四大官少論派の陷るゝところとなり謀逆の罪名下に誅せらる後四年を經て英祖の時四大官の官職を復し詞を鷺梁津に建てたるが大院君攝政の時廢合せられて今は僅かに社殿の殘存するあるのみ。

愍節書院

四忠詞を距る西二丁餘に在り世祖の元年上王の復位を圖り中途發覺して或は殺戮せられ或は自盡して果てたる集賢殿學士成三問、朴彭年、河緯地、李塏、柳誠源及び

前節度使俞應孚の六忠士を祀りし所なり英王の二十三年三月六臣の墓碑及び祉殿を此處に建てゝ前科を免す之れ亦大院君の時撤去せられて今は空しく墓碑のみ存ず

仁川之部

位置

仁川は仁畿道西岸の中部に在り北緯三十七度十五分東經百二十二度五十五分に位し江華灣内漢江河口の東北岸にあり地は仁川府に屬し其港灣の所在地を濟物浦と云ふ京城を距る二十哩の其地積三百萬坪なり

地勢

此地は京畿、忠淸、黃海三道水路の要衝に當り其の地勢は西方に向ひて突出したる小半島形をなし南は港灣に面して沿海線長く西東に延びその西北は入海によりて圍繞せられ漢江の末流茲に注ぐ而して此小半島の中央部には東西に走る長き小丘あり市街は之れに竝行して其南麓臨海一帶より西端の一角及び東北面の地にあるを以て街區も亦南北に狹く東西に長くして北方に進むに從つて地勢漸く高燥となる港の前面には月尾島、小月尾島、沙島等の島嶼港内に棊布して港内を劃し八尾島一帶の島

嶼は遙かに外廓をなして外港を形成す内港は水淺く且つ潮汐干滿の差約三十尺以上に及ぶを以て干潮の際には沿岸の岩骨悉く露出し僅に月尾島の對岸に於て碇繫をなし得るに過ぎざるも外港は別に一大港灣をなし規模雄大に水深亦之に伴ふて大船巨舶を容るゝに足る然れども前述の如く潮汐干滿の差甚だしき爲め干潮時に在りては内港に小汽船の通航すら困難を感ずる狀態なりしかば十數年來港民が仁川の築港を絶叫したる結果政府は昨四十四年度以降六ヶ年の繼續事業として總工事費三百四十八萬三千三百九十四圓を投じて既に本港の修築に着手しつゝあり長崎を距る四百五十餘浬北清の咽喉たる大連に對し更に歐州貨物の中繼市場たる上海に接する天與の好位置を占むるの地築港完成の曉に於ては實に東洋有數の一大貿易港たるに至るべし

人口

仁川に於ける内地人の戸數は三千五百七十四戸にして人口男七千〇六十五人女六千二百五十人計一萬三千三百十五人なり（但し昨年築港に着手せしより移住者日に增加しつゝあれば實數は之れ以上なり）

朝鮮人戸數四千二百八十九戸人口男八千百四十六人女八千〇〇三人計一萬六千百四十九人清國人五百四十二戸男二千三百六十人女五百二十六人計二千八百八十六人其他英、米、獨、露、伊、西等の在留諸國人を合すれば合計八千四百三十一戸三萬二千九十五人なり

沿革

明治十五年頃の仁川港は名もなき一寒浦に過ぎざりしが翌十六年一月是れが開港以來對馬、長崎、山口等各地の日本人續々渡來し同年十二月末には既に日本人數三百四十八名に達したるが當時の仁川は荒廢せる寒村にして今の支那町の邊僅かに鮮人家屋を認むるのみにて稅關附近及び仁川驛近傍には砲臺あり他は池沼隨所に點在し雜草茫々と生ひ茂り各國留居地附近の如きは蘆萩生ひて陰鬱なる濕地たりしなり而して當年第一に渡航し來れる同胞は現今の支那街が小高き丘なりしを以て先づ茲に居を卜したるも創痍の際とて一般に藁屋やバラック建の倭屋にして辛ふじて雨露を凌ぐに足るの屋根を設け壁の隙間を塞ぐに手荷物諸道具等を以てしたる有樣なれ

ば其の生活狀態の如き如何に殺風景なりしか豫想の外にあり而して本國との交通機關として小汽船千歳、鎭西の二隻ありしのみ而かも之れとても月一二回の往復に過ぎざりしなり開港當時にありては我居留民の增加に伴ひ最初若干名の世話掛を置き公共事業を委ねたるも二十年には既に多數の居留民を見るに至り居留民團設立の必要を感じたれば同年二月時の領事は居留民規則を發布し總代一名議員十名を公選し收支豫算を定めて課金の制を立て茲に始めて自治體の基礎を開くに至れり越ては二十七八年、戰役後俄然人口の增加を來たし二千六百餘名に達したれば二十九年規則を改正して市町村制に準じ民長を公選して之を有給となし民會議員中より常議員を擧げて恰かも市參事會に於けるが如くし更に三十七八年戰役後邦人の移住者激增し一躍一萬三千餘を數ふるに至り自治團体の事務も亦一層複雜なるに至れり乃ち三十八年三月居留民團法公布せられ三十九年八月十五日統監府告示第七十六号を以て仁川居留民團設定せられて今日に至れるなり

開港の起源

仁川開港の起源は明治八年八月我軍艦雲揚號が清國に赴く途次永宗島に泊し薪水を得んとしたるに守兵砲臺より我が艦を砲擊せしかば時の雲揚艦長井上馨氏（現海軍大將）之に應戰し遂に永宗島を占領したるに始まり翌九年二月二十六日全權辨理大臣黑田清隆副大臣井上馨の両氏本島に上陸し申櫶、尹滋承等と會し暴擧を謝罪せしめ且つ日韓修好條約を締結すると共に仁川、元山の両港の開港を約し明治十六年一月初めて仁川の開港を見るに至れるなり

明治十五年の變

明治十五年七月二十三日京城の亂兵宮闕を犯し轉じて我公使館を焚き閔氏の邸を圍む時の辨理公使花房議質氏事の急なるを見て水野勝毅以下館員を率ゐ圍みを破りて大街に出で王宮に赴かんとせしが南大門固く鎖して入るべからず乃ち暗夜に乘じて仁川に逃れ來り難を避けて月尾島に到り英國測量船に援けられて長崎に歸れり

明治十七年の變亂

明治十七年十二月四日京城に新設されたる郵政局は各國使臣を始め大官貴紳數百名を招待して祝宴を張る宴酣なる頃隣家に放火せしものあり一座狼狽避難せんと出先きを爭ふ折眞つ先きに門を駈け出でし閔泳翊は刺客の爲めに身に數創を被る韓國皇帝は此騷擾中朴泳孝金玉均を具し難を慶祐宮に避けさせられ更に竹添公使の率ゆる日本兵護衛の下に桂洞宮に移らせらる而して支那黨を殪し進歩主義の政府を組織せんとしたる計劃は閔泳翊の爲めに機を發かれて遂に素志を達する能はずなりぬ同月六日清兵大擧して王宮を襲ひ餘波日本人に及びて我公使館は血を見んとあせる清兵と韓民とに圍まれたり此騷亂に我在留民中彼等の毒刃に殪れし者四十六名軍人一名而して日本黨の主なる韓官も亦殺戮せらる此急報仁川に傳はるや京城の亂兵仁川をも襲ふならんと誤認せし居留民は義勇兵を組織し折柄碇泊中の日進艦よりは陸戰隊上陸し市中は混亂を極め恰も戰前の如き光景を呈しぬ領事は萬一を慮つて居留民中の老幼婦女子に一時引揚げを命じ折から入港せし千歳丸に便乘せしめ既に出港の準備を爲したるが幸ひにも數日間に亘る警戒は徒爲に歸し八日竹添公使下仁し十一日には日進艦に搭乘日本に向け出發したれば居留民は茲に甫めて不安の念を去るを得たり當時公使館附武官たりし蒙雄磯林大尉以下十數名賊刃に殪れたるが同大尉以下の靈は今仁川共同墓地の碑下に眠れり

日露戰役に於ける仁川沖の海戰

日露戰役劈頭第一の海戰は仁川沖に於て初まる當時露國太平洋艦隊は主力を旅順に集注し二等巡洋艦ワリヤーク、及裝甲砲艦コレーツの二隻を派して韓海の警戒に任せしむ我が艦隊は小村外務大臣が東京駐劄露國公使ローゼンに外交斷絶の通知を發したる二月五日を以て露國艦隊を擊破すべしとの命を受け六日黎明部署を定め全艦隊を四分して威風堂々佐世保軍港を拔錨し七日天明朝鮮海に入るや先づロシヤ號を捕獲し敵艦の旅順港外に集れる報を得て更に部署を定め第四艦隊浪速高千穗對馬須磨明石淺間の六隻に水雷艇隊二隊（八隻）を附し陸兵を搭載せる運送船三隻を護送して仁川に向はしむ之れより先き軍艦千代田は三十六年十二月中韓海警備の任務を

帶びて仁川に在り日露の風雲急ならんとするの時露艦ワリヤーク、コレーツの二隻も亦既に仁川に碇泊す艦長村上大佐は部下を警め勉めて平和を裝ひ心窃かに戰鬪準備を爲すと共に日夜警戒を嚴にし敵艦の擧動を監視しつゝあり既にして我艦隊佐世保を發し釜山近海に於てロシヤ號を捕獲したりとの電報達す若し此報敵艦に達せば彼は直に砲門を開かんと乃ち情報の到達を防ぐるに努め又徐ろに出港準備を整へ機を窺ふ七日夜天暗きに乘じ午後十一時港口を出で翌午前八時三十分第四艦隊と會するを得て仁川の情報を瓜生司令官に告ぐ司令官令を下して千代田を先頭とし高千穗淺間之に次ぎ單縱陣を爲して進む運送船數隻には歩兵第二十二旅團長木越少將の率ゆる陸兵を載せて其右側後部に從ひ水雷艇隊更らに其左側面を掩護して悠然埠頭に進航し浪速明石の諸艦は八尾島外に停まりて敵艦に備ふ時に露艦コレーツは靜かに錨を拔きて我艦に向つて進み來る我水雷艇は淺間と共に進路を轉じ運送船に信號して港外なる浪速新高明石の位置に復せんことを命ずこれ陸兵の損傷を慮かりしなり此時コレーツ先づ發砲し我水雷艇を之に應じて水雷を發射したるも皆當らず淺間乃ち旗艦浪速に報ず司令官直に浪速新高明石の三隻を率ゐて敵艦に向つて猛進すコレーツ其敵すべからざるを知り舷首を回らして月尾島に奔り危害を運送船に加へんとするの狀をなす我が三艦は茲に於て共に八尾島外に泊し以て陸兵上陸に障碍なからしむ運送船は直ち陸兵の上陸に着手し一旅團の兵九日午前五時を以て全く上陸を終る　是於て瓜生司令官は公文をワリヤーク艦長ルドネフ大佐に與へて午後一時迄に出港すべきを通告し同時に碇泊中なる英、米、伊、佛の諸艦に危害を避けて碇泊地点を變更せんことを要求す露國の二艦は既に我挑戰狀に接す勢窮するも亦辭すべからず二月九日午前十一時五十五分仁川を出づ正午十二時を過ぐる頃ワリヤーク、コレーツ二艦の檣頭高く戰鬪旗飜る我艦亦之に應じ戰鬪旗を揭ぐ戰機已に熟す零時五十五分淺間先づ砲火を開き戰鬪茲に始まる彼我の距離六千乃至七千米突の間に在り殷々たる砲聲雷霆の轟くが如く天地を震撼す既にして淺間の發したる砲彈ワリヤークの前艦橋に命中し續いて砲彈また艦橋と煙筒との間に墜ちて破裂し艦内に火を發し遂に左舷に傾斜し戰鬪に堪ゑずしてコレーツと共に港内に走る淺間追擊したる

も二艦は列國軍艦の間に竄入して碇泊す午後四時三十分コレーッ先づ火藥庫を爆發して自ら燒きワリヤーク同五時火を放ちて沈沒し東清鐵道會社の滊船スンガリー號亦續いて自ら燒棄せり此交戰三十五分我軍一名の死傷なく艦体亦一の損傷を受けず露艦の死傷八十六名特に東清鐵道會社の滊船スンガリは二月一日天明旅順より引揚の邦人九名清國人二名露國人七名を乘せて入港し歸航を豫期して世昌洋行の食料多數を積載したるが茲に二艦と末路を與にするに至る斯の如くして日露戰役の序幕は仁川沖に於て開かれ我國は戰勝の第一聲を擧げ木越旅團は京城に入れるなり

日露戰役後の發展と消長

日露戰役後に於ける仁川港は急進的の大發展を遂げ同胞の渡來する者踵を接し過度の膨脹を來たしたるが四十年三月五日新町の大火に續いて數度の大火に見舞はれ且つ戰後の反動と世界的經濟界の不況につれ一般貿易の不振に遭遇したるを以て一時進展の氣勢に一頓挫を來たしたるが堅忍なる市民の刻苦と奮鬪とにより近年漸く頽勢を挽回し殊に仁川港の死活問題たる築港も愈々昨年度より着手せられつゝあれば再び往時の盛運を現出するも遠きにあらざるべし左に最近十箇年間に於ける貿易額を示す

仁川港最近十箇年貿易額對照表

年次	輸出價額	輸入價額	合計	輸出入超過額
明治三十五年	二、六四一、四一五円	八、〇七一、四六六円	一〇、七一三、八八一円	入超　五、四二九、〇五一円
仝　三十六年	三、四九七、八二六	一〇、二六五、一〇七	一三、七六二、九三三	仝　六、七六七、二八一
仝　三十七年	二、四九八、〇六〇	一六、五九八、七七九	一九、〇九六、八三九	仝　一四、一〇〇、七一九
仝　三十八年	二、三〇三、八六一	一六、八〇三、七六八	一九、一〇七、六二九	仝　一四、四九九、九〇七
仝　三十九年	一、八七二、〇一七	一四、一三五、四九四	一六、〇〇七、五一一	仝　一三、二六三、四七七
仝　四十年	四、六二六、二〇九	二〇、七五一、八三四	二五、三七八、〇六三	仝　一六、一二五、六四五
仝　四十一年	二、一七九、一〇二	一七、八八九、四二六	二〇、〇六八、五二八	仝　一五、七一〇、三二四
仝　四十二年	三、三一六、四九八	一三、三五〇、五八四	一六、六六七、〇八二	仝　一〇、〇三四、〇八六
仝　四十三年	四、〇五五、二〇四	一二、六六六、五二三	一六、七二一、八二七	仝　八、六一一、三一九
仝　四十四年	三、九〇七、九一三	一六、五二五、九六六	二〇、四三三、八七九	仝　一二、六一八、〇五三

備考　本表は再輸入を含ます

東宮殿下の御渡韓

明治四十年七月二十四日新協約締結せられて日韓の關係一轉の機運熟せるの時に當りて　日本皇太子嘉仁親王殿下には　天皇陛下の聖旨を奉じ有栖川宮威仁親王、桂大將、東郷大將、岩倉公爵、花房男爵以下の供奉員を隨へ御見學の名を以て韓國皇室御訪問の途に上らせ給ふ　殿下は十月十日東京御發輦十三日吳軍港より軍艦香取に御乘艦鹿島、磐手、常磐、淺間、對馬の諸艦護衛し奉り威風堂々海を壓して十六日仁川港に御着あり日韓官民熱誠を披瀝して鶴駕を迎へ奉る仁川停車場に於て御出迎の韓國皇太子と御會見握手の禮を交され京城に入らせらる十七日故伊藤統監長谷川軍司令官を隨へ韓國皇室を訪はせられ皇帝、皇后、皇太子、太皇帝と御對顏二十日京城午前十時御旅館御發輦同十一時三十分仁川御着直ちに香取に御乘艦あらせられたまふ此日、韓國皇帝は南大門驛まで皇太子及び各皇族は仁川港まで御見送りありたりこの御訪問にはいたく韓國皇室に感動を與へたるものゝ如く韓國皇帝は十二月五日を以て伊藤統監に皇儲を托し東京に遊學せしむべきを決定するに至れるを以て統監は歸東に際し英親王を御同行仁川より馬關に向はれ東上せられたるが今は既に普通學の學習を卒へて目下陸軍幼年學校に御在學孜々學事の研鑽に御身を委ねさせらる

日本公園

所謂公園通りの盡端南海に面せる丘陵にあり規模大ならずと雖も四時の眺望絶佳なり丘上に大神宮祠あり琴比羅宮あり繪馬堂あり園内常に人影絶ゆることなく雅致の趣掬すべきものあり若し夫れ黄海の際涯もなく白帝の御手に染められし黄金色なる秋天の夕榮が斷雲を燒きて或は紅に或は黄に或は茶褐色など種々に染めなして妙なる彩の時々刻々に移り行く夕暮の空に至りてはげにミューズの神が色と云ふ色の極美を盡して彩りたる活畫も斯くやあらんと思はれ見渡す限り水や空やすべて五色を彩らねねなし一陣の微風夕渚の海原に起れば海上彩波を躍らし紅波緣波大船小船に當りては眞珠の玉と碎けて散るも面白し折からいとも妙へなる欸乃の一節いづこよりか水を渡りて耳朶を打てば高く低く磯邊を洗ふ白波の移らふ時を刻むに似たり見

ずや今の波は先の波先の波は今の波にあらず斯くして水は萬古に流れ行くなり更に遠く彼方を見渡せば遠近の島影に見ゐつ隠れつする眞帆片帆鷗のそれにも似て三點五點漁舟の海天遙かに漂ふを見る島山靉靆として繪帛に包まれたらんが如くなる美しき暮雲の美趣に限りなき心の悶ゐを和らぐなどあるは明鏡高く孤雁鳴く夜靜かに寄する男波女波を洗ふて月影汀に碎けて人は滿天の月光を浴び遙かに砧聲の銀濤に和して響くもあり大海原の彼方此方に浮きつ沈みつ遙かに漁火の点々たる火影ほの見ゐて金波一路月明なるの風光に至ては心はそゞろ恍惚として神韻縹渺の裡にさまよふの想あらしむ

各國公園

市街の北に當つて東より西に走る蜒蜿たる小丘の盡くるところ南麓一帶の地を各國公園と呼ぶ各國居留地會の經營になる背後は漢江の流れ白くまさに海に注がんとし前には油を流せる如なる海路を隔てゝ八尾島を望み右方永宗島の島影淡く港頭に碁布せる月尾島小月尾島沙島のあたり大船小舶の浮べる樣一幅の畫を展べたらん如く市街を下瞰し一眸の下山光水色かぎりなき好風景を恣いまゝにす園内小徑四通し奇巖怪石を配せる邊倭松蟠まり數百樹の梅櫻を植ゑ種々の草花あり藤棚の蔭小亭を設けたるなど心地よくその時々の風趣を添ふ夕陽遙かに島蔭に沈んで暮雲燃ゆるがごとく金波漂ふころより四邊漸く暗く小月尾島より射出す燈光靜かなる海上に躍る景趣味に佳し

月尾島

水を隔てゝ仁川市街と相對する周圍一里餘の島、日露開戰の序幕は此の附近に於て開始せられ我が瓜生艦隊が露艦ワリャーク、コレーツの二隻を擊沈せしめたるところの島の中腹に杏及び櫻數千株を植ゑ春によく秋によし島中、稅關檢疫所、航路標識管理所、瓦斯製造場、海軍炭庫及び無線電信所あり

花房水（クワボボム）

月尾島の斷岩青苔靑き處湧き出つる水や山葉の匂ひこそすれ山淸水銀泉碧瑠璃を湛

ふ試みに掬すれば清冽にして舌をさし渾身爽然たるを覺ゑしむ明治十五年京城變乱の際花房公使難を避けて此嶋に渉りしが飢渇の苦に堪ゑずふと傍を見れば清泉幽澄滾々として出つるを見る依て之を掬して渇を醫したり鮮人之れを見て「花房公使水を飲めり」と言ひ傳へ此の清水を花房水と名づく此地山明に水清くかの磯の渚を洗ふ浪の調べの勇ましきことよ磯濱なる松の琴の韻の優しきことよ順風を孕める一帆の影夢の如く暮雲に消ゑ失せることの美しさよ美觀言はん方なし

文學山

仁川を東に距る二里餘府内舊邑面にあり百濟の始祖温祚王の兄沸流の都せし所なりと傳ふ山巔に登れば前面海を隔てゝ島影淡く右方遙かに仁川港頭を眺め背後に朱安墟田を望む山中到る處躑躅あり麓には杏樹多く風光佳絶の地なり

桃山公園

園は最近の開設にして何等公園的設備の見るものなしと云も丘腹を迂りて巔に登れば四望豁然として眼界ひろく、渺茫たる黄海の青海原は海天一色天水を擁し両々相抱きて水天遙に接する處遠く忠清の連峯霞の如く此間幾多の嶋影星の如く羅列し眞帆片帆飽迄順風を孕んで隱れ行くさま近くは文學山の山脚が深く海に入り寄せては返す白浪が磯邊を嚙んでは碎くる浪の華岩角に咲き砂白くして波青く弓の如く灣曲せる入江の長汀に沿ひて柳楊稚松散点し幾多の漁家その間に散見するなど宛然一幅の薄墨繪を見るが如し若し夫れ春風駘蕩の季には桃花艶開して木の間透間を薄紅に染め渡し時に微風そよげば雨の如く落花繽紛として飜り嬋娟たる滿地の花片は綾羅を敷きたるかと怪しまれ眞箇桃山の名に背かず公園を西に距る二丁余牛角洞の環丘あり地は元我が陸軍墓地にして明治十五年及び同十七年の變乱に際し無慘凶刄に殪れし堀本中尉及び磯林大尉以下の殉難者を埋むる所なり今や蒼苔草滑かなる邊り靜に奥都城の底に英魂眠れるも芳名は永へに日月と光を爭ふ亦以て瞑すべきなり時に遊ぶ墨客の來て追思の涙を渉ぐもの多し曩時我が東宮殿下の御渡韓に扈從せし時の宮内次官花房義質氏は實に當年渠等と先生を共にせしの故を以て歸途親しく墓前を弔し昔時を偲び感慨無量なりしと

觀測所

各國公園を出でゝ後方小丘を左すれば魏然として聳立せる洋館の建物是なり東徑百二十六度三十二分北緯三十七度二十九分晴雨計海面上の高さ七十メートルにあり本所は明治三十七年四月十日の開設に係はり汎く氣象に關する事務を管掌し天氣豫報暴風雨警戒を報じ又官公署私人の依囑に應じて正確なる時刻を報導し氣象機械の檢定を行ふ又その附屬測候所を京城、釜山、元山、平壤、大邱、木浦、城津、龍巖浦に有す朝鮮總督府隨一の觀測所たり頂上より展望せば江華、永宗、月尾諸島の嶋影山の色、きよき海の光、油の如き潮、清光遠く風光明媚なり

江華島之部

江華島一班

江華島は仁川港の西北漢江の河口に横はる島郡にして東西四里十五町南北六里三十町にして周圍約三十里總面積二十三方里あり朝鮮三大島の一にて左方に在る喬桐島と相並んで漢江の咽喉を扼し海路交通の要衝に當り軍事上重要なる位置を占む故に往昔城壘を築き今尚ほ山陵の頂腹に燧燧砲壘の跡あり津浦には敗樓殘堡あり古來數多の戰蹟を偲ばしむ島内山嶽起伏し峻阪險路多く交通便ならず住民亦慓悍の風あり多くは農事に從ふも生計裕ならず内地人の居住する者九十餘名朝鮮人一萬一千七百餘戸五萬四千八百餘人あり

本島は古來幾多の史話に富む其の最近に於けるものを擧ぐれば我慶應二年攝政大院君が佛國宣教師を虐殺したるの故を以て佛は問罪の師を起して水師提督ローゼ軍艦七隻を率ひて來り攻め江華城を陷れたれば大院君は北國地方の虎獵銃手を募りて之

れを防戰し佛軍を大敗せしめたることあり其後十年即はち明治八年我艦雲楊號が本島に碇泊して薪水を得んとしたる時島兵我艦を砲擊す我兵直ちに攻めて砲臺を拔く而して翌年二月日韓修好條約を締結するに至る越ねて四十年暴動事件は未だ世人の記憶に新なるところなるべし終りに本島の沿革に就て一言せんに本島は往昔高句麗の穴口郡にして新羅景德王海口と改稱し元聖王穴口鎭を置く而して高麗の始め今の名に改め縣となせり高宗王蒙古の兵を此地に避くるに際し郡となし江都と號し元宗王の時松都（開城）に還る忠烈王の時仁州（仁川）を併せたるも尋ぐ舊に復し李朝に及びて都護府となし明治四十三年の行政改革に際して郡に改めたり

永宗島

仁川の西海上十數町を隔つるところ漢江河口に横はる長さ三里幅一里餘りの一島嶼なり本島を離れたる一嶼に城址あり是れ舊永宗鎭にして漢江に入るの第一門なり日本人の居住する者二三戸朝鮮人三百餘戸あり多くは半農半漁に從ふ島中奇景多く中央に位するところ白雲山あり小丘の麓松樹の間或は田圃に近く藁屋三々五々點在する態内地の村落を見るの心地す島内禽鳥に富み獵期に入らんか銃獵家踵を接して來たる彼の仁川開港の起源となりし雲揚艦砲擊事件は普く人の知るところなり

江華島の役

江華島の役及び雲揚艦砲擊事件は江華島一斑及び仁川の部に於て異記したるを以て茲に掲記せず

江華邑

島の東北部に偏在する山麓にあり四面城壁を繞らし東西二門を設く城は李朝開國二百八十四年江華留守閔鎭遠の築きしものと云ふ邑の東方一里の海岸に月串浦あり仁川を距る二十浬隔日小蒸滊船の航行あり島内唯一の貨物集産場たり日本人の居住する者四十餘名朝鮮千二百戸五千三百餘人あり

傳燈寺

邑の南方四里燈傳燈山に古刹あり山は檀君が其の三子をして城を築かしめたるを以

て一名三郎城とも云ふ高麗忠烈王の時僧印なる者宋に赴きて大藏經及び玉燈を齎し還りて經を藏め燈を傳へしが之れを傳燈寺と名づくと云ふ而して寺は新羅の朝赫居世の建立せるものにして天險を擁し一夫之れに據る時は萬卒進む能はざるの要害にして開國以來王室に關する由緒書類寶物等を奉藏す明治四十一年暴徒李能坤部下數十名を以て之れに據り我討伐軍に非常の苦痛を與へたることあり傳へ云ふ國王最後の避難所なりしと

塹城壇

邑を距る南方四里摩尼山上にあり一名を參星壇といふ太古檀君が天を祭り祈禱をなしたる處なりと

高麗山

邑の西一里餘にあり高麗忠烈王の時天竺の異僧此の山の西麓石積寺に來り手に五色の蓮花を摘みて旋風に飛揚し白青赤三色の蓮花の落ちたる所に各寺院を建立し白蓮寺青蓮寺赤蓮寺と名づけたり因て五蓮山とも云ふ寺院は今尚ほ存す

積石寺

邑を距る一里半の處にあり新羅の朝赫居の建立せし寺院にして斷岩絶壁廻らすに松樹を以てし風光雅致に富む

文珠城

仁川を距る二十餘海浬市口串面城內里漢江の沿岸にあり蕭宗帝甲戌の歲築城し後縣監を陞し府使兼別將と爲す往年佛軍が陸路京城に進擊せんとし指揮官ローゼは海軍中佐ヲリフィエーをして陸戰隊を組織せしめたりしかば大院君は北關の獵虎銃手八百人を派し應援して之を擊退せしめたる處なり

巡撫中軍梁憲誅碑

吉祥面溫水洞にあり往年米艦の來襲を迎擊して敵を退却せしめたる戰勝紀念の爲め建立したるものなり

忠臣名士古戰場

吉祥面温州洞にあり今を去る三百四十餘年前明漢の戰爭中時の國王難を廣州南漢山に避け世子大君三兄弟は難を江華島に避けたりしが王子を守護せる勇士二十一名は王子の虞となるに及び潔く戰死を遂げたる處なりといふ

吉祥面温州洞にあり今を去る三百四十餘年前明漢の戰爭中時の國王難を廣州南漢山に避け世子大君三兄弟は難を江華島に避けたりしが王子を守護せる勇士二十一名は王子の虞となるに及び潔く戰死を遂げたる處なりといふ

附錄

日、韓、清、西、曆年代對照

西曆紀元	清國	韓國	日本
1885	光緒 11	先帝 22	明治 18
1886	12	23	19
1887	13	24	20
1888	14	25	21
1889	15	26	22
1890	16	27	23
1891	17	28	24
1892	18	29	25
1893	19	30	26
1894	20	31	27
1895	21	32	28
1896	22	建陽 1	29
1897	23	光武 1	30
1898	24	2	31
1899	25	3	32
1900	26	4	33
1901	27	5	34
1902	28	6	35
1903	29	7	36
1904	30	8	37
1905	31	9	38
1906	32	10	39
1907	33	隆熙 1	40
1908	宣統 1	2	41
1909	2	3	42
1910	3	4	43
1911	4		44
1912	5		45

李朝系譜

太祖高皇帝	太祖康獻王	李且(初諱成桂)字君晋號松軒	桓祖聖桓王二子	懿惠王后崔氏靖孝公閑奇女	七十四	神懿高皇后韓氏安川院附君鄕女
定宗顯孝王	定宗恭靖王	曦(初芳果)字光遠	太祖次子	神懿王后韓氏	二六十五	定安王皇金氏禮賓寺事尖端女
太宗光孝王	太宗恭定王	芳遠字遺德	太祖五子同前		十八五十六	敬王后閔氏驪興府院尹文度公齊女
世宗明孝王	世宗莊憲王	祹字元正	太祖三子	元敬王后閔氏	三十二五十四	昭憲王后沈氏青川府院君安孝公溫女
文宗聖孝王	文宗恭順王	珦字輝之	世宗長子	昭憲王后沈氏	二三十九	顯德王皇權氏花山府院君息庇公專女
端宗敦孝王	端宗恭懿王	弘暐文		顯德王后權氏	三十七	安順王皇宋氏礪良府君琰壽女
世祖仁孝王	世祖惠莊王	瑈字粹之	世宗次子	昭憲王后沈氏	十三五十二	貞喜王后尹氏坡平府院君貞靖公璘女
懿敬王	懿敬王	暲(初璋)字明叔	世宗長子	貞喜王后尹氏	數月二十	昭惠王后韓氏西原府院君襄節公確女
睿宗昭孝王	睿宗襄悼王	晃(初平)字明照	世宗次子同前		一二十二	章順王后韓氏上黨府院君忠成公明澮女
成宗恭孝王	成宗康靖王	娎	德宗次子	昭惠王后韓氏	二十五三十八	恭惠王后韓氏上黨府院君忠成公明澮女
燕山君	燕山君	怪	成宗長子	廢妃尹氏	十二三十一	夫人居昌愼氏領議政章成公承善女
中宗恭僖王	中宗誠孝王	懌宗樂天	成宗次子	章敬王后尹氏鈴原府院君壤女	三十九五十七	端敬王后昌愼氏益昌府院君信度公守勤女
仁宗恭靖王	仁宗欽孝王	峘	中宗長子	章敬王后尹氏坡源府院君汝弼女	一三十一	仁聖王后朴氏錦城府院君廷女
明宗恭憲王	明宗敬孝王	岷字對陽	中宗次子			文定王后尹氏坡山府院君之任女
					二十二	三十四

宣祖宣德王	宣祖昭敬王	昖(初鈞)德興大院君(中宗子)	三子	昭河東府大夫人鄭氏贈領議正虎女	四十一	五十七 懿仁王后朴氏潘城府院君應順女
光海君光海君	琿		宣祖二子	恭嬪金氏	十四	夫人文化柳氏判尹自化新女
仁祖仁祖	倧字和伯	元宗(宣宗五子稱章孝王)	長子	仁獻王后具氏	五十五	仁烈王后韓氏西平府院君文翼公浚謙女
孝宗孝宣王	慰文王	愍	仁祖次子	仁烈王后韓氏	一四十一	仁宜王后張氏新豐府院君文忠公維女
顯宗顯孝王	宗孝王	具字明遠號竹菴	仁烈王后韓氏	仁宣王后張氏	十五三十四	明聖王后金氏清風府院君忠翼公佑明女
肅宗顯孝王	肅宗元孝王	焞字明豊	顯宗次子	明聖王后金氏	四十六	仁敬王后金氏光城府院君大忠公萬女
景宗宣孝王	景宗宣孝王	昫字輝瑞	肅宗次子	仁敬王后金氏	六十	端懿王后沈氏青思府院君洪女
英祖英孝王	英祖顯孝王	昑字光叔	肅宗四子	淑嬪崔氏	五十二八十三	貞聖王后徐氏遠成府院君孝僖公宗悌女
正祖正宣皇帝	正祖莊孝王	我字松享	莊獻世子(宗英)次子	惠嬪洪氏	二十四四十九	孝懿王后金氏清原府院君靖翼公時默女
純祖純皇帝	純祖成孝王	玧字公瑞	純祖次子	純元王后金氏	四十五	純元王后金氏永安府院君忠文公祖淳女
憲宗憲孝王	憲宗翼孝王	奐字元章	憲宗次子	孝顯王后金氏	十五二十三	孝定王后閔氏永興府院君孝莊公祖根女
哲宗哲孝王	哲宗英孝王	昇字道升	純元王后金氏	大妃趙氏	十四三十三	明純大妃金氏鳳恩府院君忠張公汝振女
		熙(初諱載謙)字聖明大	德興宮李太王	興宣大院君是應	驪興府大夫人閔氏	哲宗二年明成皇后閔氏
昌德宮李王	坧			李太王殿下第二王子	慶州府留守致久子	辛亥生 驪城府院君致祿女

備考　一大祖康獻王ハ我カ明治三十二年皇帝ノ號ヲ以テ追尊セラル、二、英宗ハ明治二十三年英宗ト追改セラル、三、莊獻世子ハ明治三十二年追尊セラレテ莊祖懿皇帝トナリ其兄眞宗恭ヲ孝章王ト稱シ、正宗純皆同年ニ追改セラル、四、翼宗モ同年文祖翼皇帝ト追尊セラレタリ、其他哲宗ハ現帝ノ傍系タルヲ以テ追尊ノ事ナシ

朝鮮總督府道行政區劃（明治四十三年十月一日）

名稱	所在地	管轄區域
京畿道	京城	京城府、驪州郡、竹山郡、金浦郡、果川郡、仁川府、長湍郡、安山郡、永平郡、楊州郡、南陽郡、朔寧郡、麻田郡、智田郡、水原郡、龍仁郡、坡州郡、高陽郡、交河郡、陰竹郡、廣州郡、利川郡、加平郡、通津郡、富平郡、陽城郡、陰川郡、喬桐郡、振威郡、始興郡（府二、郡三六）
忠清北道	清州	清州郡、堤川郡、青山郡、忠州郡、清安郡、延豐郡、洪州郡、林川郡、保寧郡、稷山郡、全州郡、茂長郡、鎮安郡、鎮岑郡、鎮川郡、文義郡、沃川郡、懷仁郡、泰安郡、青陽郡、連山郡、扶餘郡、藍浦郡、舒川郡、定山郡、金義郡（郡三七）
忠清南道	公州	公州郡、德山郡、結城郡、鎮岑郡、燕岐郡、公州郡、洪川郡、林川郡、保寧郡、稷山郡、全州郡、茂長郡、鎮安郡、鎮岑郡、鎮川郡、文義郡、沃川郡、懷仁郡、清風郡、槐山郡、報恩郡、黃澗郡（郡一八）、懷德郡、韓山郡、舒川郡、藍浦郡、定山郡、金義郡（郡三七）、端川郡、鴻山郡、恩津郡、牙山郡、海美郡、石城郡、庇仁郡、天安郡、沔川郡、泰安郡、青陽郡、連山郡、扶餘郡、大興郡、禮山郡、溫陽郡、新昌郡、淳昌郡、長水郡、珍山郡、古阜郡、金堤郡、臨陂郡、井邑郡（府一、郡二七）
全羅北道	全州	全州郡、泰仁府、金溝郡、龍潭郡、全州郡、茂長郡、鎮安郡、長水郡、雲峰郡、南原郡、任實郡、益山郡、高山郡、龍安郡、扶安郡、茂朱郡、興德郡、淳昌郡、長水郡、成悅郡、古阜郡、臨陂郡、井邑郡（府一、郡二七）、光州郡、寶城郡、同福郡、木浦府、順天郡、谷城郡、突山郡、興陽郡、求禮郡、濟州郡、旌義郡、大靜郡、羅州郡、綾州郡、平郡、康津郡、珍島郡、長城郡、光陽郡（府一、郡二八）、大邱府、尚州郡、喜山郡、青松郡、慶州郡、比安郡、同仁郡、義城郡、安東郡、高靈郡、漆谷郡、星州郡、泉郡、清道郡、金山郡、豐基郡、奉化郡、盈德郡、興海郡、慶州郡、義城郡、寧海郡、延日郡、陽郡、知禮郡、英陽郡、軍威郡（府一、郡四〇）、慶尚北道 大邱
慶尚南道	晉州	晉州郡、金海郡、陝川郡、居昌郡、三嘉郡、安義郡、泗川郡、丹城郡、密陽郡、咸陽郡、山淸郡、鳳山郡、巨濟郡、蔚山郡、彥陽郡、咸安郡、河東郡、南海郡、龍南郡、機張郡（府二、郡二七）、釜山府、固城郡、昌寧郡、草溪郡、宜寧郡、馬山府、梁山郡、昆陽郡、平山郡、泰川郡、新溪郡、海州郡、松木郡、段栗郡、春川郡、手昌郡、杆城郡、安峽郡、洪川郡、蔚珍郡、永柔郡、寧遠郡、甫川郡、成川郡、順陽郡、德郡、安郡、江東郡、孟山郡、安州郡、中和郡、甑山郡、龍岡郡、价川郡、祥原郡、德川郡（府二、郡一七）、黃海道 海州
平安南道	平壤	平壤府、江西郡、鎭南浦府、順川郡、成川郡、順川郡、龍川郡、宣川郡、楚山郡、龜城郡、朔州郡（府一、郡二〇）、義州府、鐵山郡、嘉山郡、郭山郡、寧邊郡、熙川郡、江界郡、碧山郡、雲山郡、泰川郡、厚昌郡、江原道 春川
平安北道	義州	義州府、鐵山郡、嘉山郡、郭山郡、寧邊郡、熙川郡、江界郡、碧山郡、雲山郡、泰川郡、厚昌郡、慈城郡、平安北道 義州

咸鏡南道　咸興　元山府　咸興郡　北青郡　端川郡　永興郡　甲山郡　洪原郡　安邊郡（府一、郡一三）
咸鏡北道　咸鏡　清津府　鏡城郡　吉州郡　明川郡　城津郡　茂山郡　會寧郡　鐘城郡（府一、郡一〇）
慶源郡　慶興郡　穩城郡　定平郡　三水郡　長津郡　利原郡　文川郡　高原郡

朝鮮布教の沿革

大谷派本願寺朝鮮布教沿革

本派の朝鮮開教は遠く三百年前にあり天正十一年織田家の臣奥村掃部介夢に教如上人を拜せしより剃髮して佛門に入り淨信と號し教如上人より阿彌陀如來尊像一体黃金佛（一寸八分）一体及び諸品四十餘点を賜ひ天正十五年朝鮮布教を命ぜられ釜山に航して一寺を興し釜山高德寺と云ふに創まる後豐臣秀吉の朝鮮征伐に際し淨信は我軍の引揚と共に朝鮮を去れり德川時代に至りて外國との交通を嚴禁せらるゝに及び朝鮮布教は中斷せり降つて明治十年時の外務卿寺島宗則氏は內務卿大久保利通氏を介して本願寺に朝鮮開教を勸めたるが動機となり往時の因緣により奥村淨信師の後裔なる奥村圓心師に命じ仝年直ちに釜山に布教を開始せしめ十三年元山に十七年仁川に而して二十三年京城に別院を設置するに至れり

京城別院

三十二年十月京城別院開設當時は日本人の居住する者僅かに三百餘人に過ぎざりしが赤松慶遠師は奮勵布教に從事する傍ら學校を起して居留民子弟の教育に當り三十五年に至る十餘年の間居留民子弟の教育は全く本願寺の手に依りて經營せられたるなり二十八年居留民の漸く增加すると共に一大伽藍を建設せんとし先づ敷地を倭城臺に相して四千三百餘坪を購入し三十三年に至りて約八十坪の庫裏を建て三十五年には韓人教會を起して爾來鮮人布教に努めつゝあり三十八年一月輪番井波潛彰は時の韓皇陛下（李太王）に謁見仰付けられたれば井波師は闕下に伏して親しく眞宗の宗意及び本願寺の布教方針を奏聞したり仝年二月本堂創立の議決し直ちに建築に着手し三十九年十一月總經費六萬圓を費して十三間四面總檜造の伽藍落成せり韓皇陛下には特に御手許金五千九百圓と十二株の大木材を下賜せられ且つ落成の日には大韓阿彌陀本願寺の震翰及び金五百圓を賜ひ勅願所とせられたり而して朝鮮布教を統一するが爲め朝鮮布教監督部を設置し各樞要の地に出張所布教所を設け精神界の開發に盡瘁しつゝあり

行路病人收容所

收容所は元と居留民團の事業なりしが三十九年二月より本願寺別院附屬として當別院信徒團体京城教社の經營する所となり四十二年寄附金及び本願寺の補助金を以て建坪十七坪の平屋瓦葺一棟を新築するに至れり而して民團よりの補助金は四十一年百圓、四十二年二百圓、四十三年無し四十四年七十四圓九十錢、四十五年三月迄三百二十四圓四十四錢にして引繼以來收容したる人員は男百七十一名女二十四名計百九十五名尙擴張の計畫中なり

本願寺梵鐘の由來

當寺の梵鐘は元と京畿道砥平郡龍門山上院寺に在り今を去ること約千年前新羅敬順王の命に依りて鑄造したるものにして明治四十四年四月之を讓受けたり關野工學博士の鑑定に依れば其樣式及び模樣より判ずれば約八百年前の作にて樣式は韓式と支那式とを折衷したるものにして此点從來未だ曾て見ざる珍奇の鐘なりと云ふ

大谷派本願寺朝鮮布教一覽

創立年月	寺院名稱	主任者
明治十年十一月	釜山別院	大幸頓專
仝 十三年十月	元山別院	谷內式惠
仝 十七年四月	仁川別院	重永元龍
仝 二十三年	京城別院	長谷得靜
仝 三十年五月	木浦別院	佐々木圓慰
仝 三十八年十一月	新幕出張所	開城ヨリ出張
仝 四十年五月	永同出張所	大田ヨリ出張
仝 四十年五月	秋風嶺出張所	大田ヨリ出張
仝 四十年六月	英江出張所	鳥致院ヨリ出張
仝 四十一年	草梁出張所	釜山ヨリ出張
仝 四十一年	釜山鎭出張所	釜山ヨリ出張
仝 四十一年三月	慶山出張所	密陽ヨリ出張
仝 四十一年三月	院洞出張所	三浪津ヨリ出張
仝 四十一年三月	大邱出張所	密陽ヨリ出張
仝 四十一年三月	清道出張所	密陽ヨリ出張
仝 四十二年五月	鳥山出張所	水原ヨリ出張
仝 四十二年五月	天安出張所	水原ヨリ出張
仝 四十二年八月	新龍山出張所	宮城誠願
仝 四十二年十月	南平出張所	光州ヨリ出張
仝 四十二年十一月	羅南出張所	清津ヨリ出張
仝 四十三年一月	勿禁出張所	龜浦ヨリ出張
仝 四十三年一月	東萊出張所	龜浦ヨリ出張
仝 四十三年五月	羅州出張所	榮山浦ヨリ出張
仝 四十三年五月	廣灘出張所	榮山浦ヨリ出張
仝 三十三年四月	鎭南浦布教所	釜谷秀
仝 三十三年六月	群山布教所	三好長丸
仝 三十八年十一月	開城布教所	今濱宛成
仝 三十九年	新義州布教所	松江賢哲
仝 四十年五月	晋州布教所	上田仙秀
仝 四十年五月	大田布教所	松林深慧
仝 四十年六月	鳥致院布教所	林大行
仝 四十一年三月	三浪津布教所	本田惠堯
仝 四十一年三月	密陽布教所	釜田法章
仝 四十一年七月	全州布教所	加藤瑆英
仝 四十一年七月	清津布教所	武田惠敎
仝 四十一年七月	咸興布教所	草野本誓
仝 四十一年十二月	城津布教所	原元晃
仝 四十二年五月	水原布教所	前田鐵心
仝 四十二年八月	龍山布教所	宮城誠願
仝 四十二年十月	光州布教所	本庄豊二
仝 四十二年十一月	清州布教所	松尾義法
仝 四十三年一月	龜浦布教所	日野美雄
仝 四十三年一月	金海布教所	龜浦ヨリ出張
仝 四十三年二月	公州布教所	古澤惠誠
仝 四十三年五月	榮山浦布教所	寺尾現曉
仝 四十三年六月	安州布教所	國枝誓忍
仝 四十三年八月	廣梁灣布教所	十八公慶緣
仝 四十三年十月	浦項布教所	上杉忠彥
仝 四十三年十一月	三千浦布教所	大屋隆貫
仝 四十四年	濟州島布教所	松本秀穗
仝 四十四年十二月	春川布教所	山本文英
仝 四十五年二月	論山布教所	松田照那
仝 四十五年四月	鎭海布教所	柳銳說
仝 四十三年一月	絕影島布教所	鹽谷法津

本派本願寺朝鮮布教沿革

本派本願寺が朝鮮布教を開始したるは日清戰役後にして明治維新前に於て元泰、惠

俊の徒が挺身渡韓して布教に從事したるも開教の根底を基く能はずして去り維新後にありては高田義見、加藤恵証の両師鮮内を脚行して布教に努めたるも幾くもなくして中止し後ち中山唯然が慶尙北道に於て開教に從ひ今日の釜山出張所の基を築きたるが要するに此時代は布教開始の準備時代に過ぎざりき

朝鮮開教總監部

明治三十九年十月總監部を龍山に開き布教を監督することゝなり大谷尊寶師開教總監となり四十二年大谷尊由師代はりて來任し四十四年更に大洲鐵也師任に就き四十五年三月京城永樂町に移轉し現に大洲師常任して布教を監督し居れり

鮮人布教

朝鮮に於て布教に從事せる各宗各派中最も多く信徒を有せるを本派本願寺となす明治三十五六年頃嚴常圓師慶尙南道萊郡なる梵魚寺に入り鮮僧と伍して語學を研究し風俗慣習を探り支那より律を傳へたる朝鮮戒律の中興萬下和尙に二百五十戒を承け師に從つて鮮僧を裝ひ平安、咸鏡南北の四道を除く九道を行脚し具さに辛酸を嘗め名刹を訪ひ鮮僧と交はり鮮人布教に就て研究する所あり後ち慶尙南道機張郡に來りて日語學堂を起し鮮人子弟の教育に從事し傍ら東萊、彦陽、梁山等の各郡に布教を開始し更に梁山郡通度寺に學校を設け鮮僧教育に努めたるも時到らずして中止し機張學堂を普明學校（現今公立普明通學校となれり）と改め專心教育と附近の傳道とに努めつゝありしが日露戰役後本願寺が總監部を龍山に置くに及び師は選ばれて龍山に招かれ四十年九月鮮人開教の機關として師に命じて京城長谷川町に韓人教會を起さしめ傍ら內地人の布教に從ひ四十一年に至り大聖教會と改稱し四十三年新橋通に移轉し鋭意鮮人布教に努めしめつゝあり而して本會は現今四十一箇所の分會と二萬餘の會員とを有す

鮮人教育

大聖教會設立せらるゝや布教の傍ら本會の事業として夜間日本人に鮮語を鮮人に日本語を教授し續いて傳導に從事し得べき鮮人に宗學を授け來りしが成績を見るべきものあり現に業を卒へたる者の中傳導補助となれる者三十餘名あり尙本山の事業と

して總監府の認可を得て高等學院を起し普通學校の卒業者を入學せしめ佛教中學に準じ內地中學と同程度の學科を授けつゝあり此の外普通學校ありて男女學生に官立普通學校と同一の學科を授く両校の教師內地人五名女三名鮮人三名之れに從ふ

日僧の留學

四十三年以來本山は鮮人の布教に從事する開教使を養成する目的を以て京城平壤及び元山に佛教大學卒業生を派して鮮語を學ばしめつゝあり既に四名の留學生は自由に己の意志を發表するに差閊へなきまでに熟達するに至り尙今後續々增派の計畫中なりと

本願寺と監獄教誨

在鮮邦人の囚徒多きを加ふるに從ひ監獄布教の必要を感じ明治四十年教誨使派遣に就て時の理事廳と交渉を開始し四十一年五月永登浦監獄創設せらるゝに及び專任教誨使を派遣して囚人教誨に着手したり朝鮮に於ける本派の監獄布教は之を以て嚆矢となす翌四十二年九月韓國監獄官制發表せられたる當時韓人囚監獄八ヶ所邦人囚監獄十三ヶ所ありしかば永登浦の外京城、仁川、平壤、釜山、大邱、馬山、兼二浦にも教誨師を派し更に仝年十二月には光州及び全州にも監獄布教使を置き遂次各監獄にも及ばんとす

布教督理方法及出張所

中央(京城)に總監部を置き總監ありて一般の布教を監督し京城、平壤、釜山、元山の四教區を設け各贊事を駐在せしめ中央に贊事長ありて一拳五指の動作を爲しつゝあり而して京城、龍山、釜山、仁川、大邱、羅州、金泉、光州、兼二浦、平壤、鎭南浦、永登浦、全州、統營及び義州の十五ヶ所に出張所を設け草梁、巨濟島、麗水慶州、絕影島の五ヶ所に布教場ありて各布教使を派遣して鋭意精神界の開發に努せしめつゝあり

曹洞宗両大本山別院

禪宗は曹洞、臨濟、黄檗の三派に分れ就中く曹洞宗は最も優勢にして一萬五千の寺院と一千萬の信徒とを有し眞宗と相並んで佛教各宗派中の首位にあり而して此の宗を統轄するものは永平寺及び總持寺の二にして之れを両大本山と稱す

朝鮮の開教

本山が朝鮮開教に着手せるは日露戰役以前にして彼の日韓合併に際して尠なからず盡瘁したる武田範之師は即はち本宗の僧侶にして日露の戰役前已に渡鮮し布教の傍ら相將の間に往來して國事に奔走し彼の閔妃暗殺事件の當時の如きは暗殺事件に座して廣島監獄に拘留せられたることありき其後本山が十餘名の布教使を朝鮮の各要所に派遣して開教に從事せしむるや武田師を以て之れが管理者に任じたるが合併の事成るの後幾くもなくして武田師長逝せるを以て明治四十三年曹洞宗一等教師たる伊豫松山龍穩寺の住職田中道圓師を派して布教を管理せしめたり

別院の設置

田中道圓師の赴任するや本山は京城若草町一丁目に地を相して両本山の假出張所を設置せしめ之れを別院と稱して朝鮮に於ける各布教所を統轄せしめたるが布教發展の實遲々として進まざるを以て本山は更に一宗の高僧北野元峯禪師を布教總監となして別院に駐在せしむるに及び爰に時と人とを得て漸く教勢日に月に擴大せらるゝに至り現在の別院にては狹隘を感ずるより本堂建立の議起り建築費五萬圓を投ずる豫算にて目下敷地の撰擇中なり

別院の事業

北野禪師は赴任すると同時に布教總監部を此の別院に置き各布教所の總轄をなし今年四月より鮮語に熟達せる布教使十名を鐵原、清州、公州、晉州、光州、木浦、全州、羅南、開城、平壤、鎮南浦の各地に派して布教に從事せしめ更に四十六年度に於ては載寧、咸鏡、鏡城、會寧、清津、榮山浦、水原、昌原、東萊、新義州等に全じく十名の布教師を派遣するの豫定なりと而して一方に於ては各方面に向つて奮勵布教に努めつゝあり布教機關として左の團體を組織す

一、大日本薫風會京城支會

一、觀音講
一、報恩講
一、鮮人布教

薫風會員の多くは總督府官吏にして約百五十名を以て組織し毎日曜日午前十時より集會して禪學を提唱し又は修養講話をなし觀音講及び報恩講は一般信者約二百名より成り毎月五回例會を開きて講話をなす其他總督府讀書會、朝鮮銀行員、南大門驛員、共益社員、愛國婦人會員等の團體を始めとし各種の團体より北野禪師を請して法筵を敷くもの多し鮮人布教は李王職家の奏任判任併せて五十名を集會せしめ毎水曜日を以て禪的法話をなす一般鮮人の布教は今夏季より開始の筈にて目下準備中なり尚布教機關として宗報、和蝦誌、禪、及び佛教新聞を發刊す

別院の信徒數

本院の朝鮮布教開始以來日尚淺きにも係らず已に京城に於ける母國人信徒數二千餘名朝鮮人約百名を算するに至り日を遂ふて增加しつゝあり

布教狀態一覽

創立年月	所在地名	稱	信徒數	布教使名
明治四十年三月	大田	大田寺	五〇〇人	鶴田機雲
仝 四十年四月	釜山	總泉寺	一、五〇〇人	長田觀禪
仝 四十年五月	龍岩浦	龍岩寺	二〇〇人	平山仁鳳
仝 四十二年五月	龍山	瑞・龍寺	八〇〇人	富士洞然
仝 四十二年六月	群山	群山布教所	三〇〇人	内田佛觀
仝 四十二年八月	仁川	本山布教所	七〇〇人	磯部峯仙
仝 四十二年八月	馬山	馬山布教所	二五〇人	井手良梧
仝 四十四年一月	大邱	大邱布教所	未詳	近藤愚道
仝 四十五年二月	元山	元山布教所	未詳	任生廊仙
仝 四十五年四月	鐵原	鐵原布教所	未詳	光英勇猛
仝	上清州	清州布教所	未詳	永井壽雄

仝	上	晉州	晉州布敎所	未詳
仝	上	光州	光州布敎所	未詳
仝	上	全州	全州布敎所	未詳
仝	上	公州	公州布敎所	未詳
仝	上	羅南	羅南布敎所	未詳
仝	上	木浦	木浦布敎所	未詳
仝	上	開城	開城布敎所	未詳
仝	上	平壤	平壤布敎所	未詳
仝	上	鎭南浦	鎭南浦布敎所	未詳

未詳　未着
中野琢乘
北畑泰榮
河村祚玄
牧野秀孝
多羅道賢
義滿玄機
宮部悅嚴
長岡義方

曹洞宗靑坡山瑞龍寺概況

瑞龍寺の開設者たる現住職富士洞然師は日露戰役當時挺身渡鮮して諸地を托鉢修業すること數年苦心慘憺の結果漸くにして素志を貫徹するを得て四十年二月龍山浦靑坡に假布敎所を設けて開敎に着手し四十一年京龍仁の布敎管理所を當山に設置するに及び夙に朝鮮に入り布敎の傍ら志士と交り國事に奔走し彼の閔妃事件に座して廣島監獄に下りしことある故武田範之師管理の任に當れり越ねて四十二年三月遂に本堂を建築し靑坡山瑞龍寺と云ふ山號及び寺號の由來は靑坡の地名と前田利長公の菩提所たる高岡瑞龍寺は同公の法名たる瑞龍院殿聖山英賢大居士の院號に起因せるを以て當山も其の淺からぬ緣故あるを以て本山の同意を得て斯く命名したるものなりして四十三年四月京城に曹洞宗別院設置せらるゝや布敎管理所を別院に引繼ぎ富士師は依然同寺に在りて龍山一帶の布敎に努めつゝあり現在信徒總數三百五十人あり布敎機關として月次說敎(每月十日)觀音講(同十八日)報恩講(同二十八日)を設け其他は櫛風沐雨京龍間を托鉢しつゝあり

境內には口繪に揭げたる故武田範之師の墓碑あり碑は昨秋の建設に係る尙一隅に稻荷の堂祠あり參詣人常に絕ねず

日蓮宗朝鮮布教沿革

日蓮宗の朝鮮に布教を開始したる其起源遠く六百年前にして日蓮聖人の上足遠華阿闍梨日持が日蓮の滅後十三年永仁三年海外布教の途に上れる歸途支那大陸より南下して朝鮮に入り布教に從事したるは當時の記錄に徵して明かなり降つて明治十四年渡邊日蓮師釜山に航して日宗會堂を創立し仝二十三年京都妙覺寺住職旭日苗師（現管長）釜山に渡り朝鮮布教の必要を感じて管長に具申し認可を得て日宗海外宣教會を組織す之れ近代に於ける朝鮮布教の初めとす其後二十六年加藤文教、飯尾龍進の両師日苗老師を佐けて仁川及元山に布教所を設け仝二十九年佐野前勵師京城に來りて時の韓皇陛下に謁見し留錫數月朝鮮に於ける佛教に就て調査する所あり殊に李朝五百年間京城に入るを得ざりし韓僧の入城解禁を出願して聽許せられたり尚當時韓僧中より俊才十六人を撰びて日本に留學せしむ越ては三十年に至り始めて京城南山町に布教所を創設し日宗會堂と稱す三十一年現在の場所に轉じ三十二年五月加藤文教師去り加藤清亮師代りて來任す四十三年旭町に移り認可を得て立正山護國寺と改稱し引き續き加藤師布教管理者として駐在せり目下本堂の建築準備中

在鮮日蓮宗院數

釜山元山仁川京城鎭南浦群山咸興平壤馬山大邱及び京城新町の十一ヶ寺母國人信徒千三百戸鮮人未詳

眞言宗朝鮮布教沿革

本宗の朝鮮布教に着手したるは明治三十九年京城に高野山假教會所を設け更に仝年十月現在の寺院を創立せり落成入佛式には高僧釋雲照律師を請して擧行し四十年三月光雲寺の寺號と高野山教會支部設立の申請をなし其筋の認可を得たり寺院創立者及び現住職は權少僧都高野山布教管理者金武順道師なり目下京城龍山及び水原の三ヶ所に於て布教に從事しつゝあり信徒二千餘名あり

臨濟宗朝鮮布教沿革

朝鮮に於ける本宗の布教は未だ微々として振はず僅かに妙心寺の布教管理所を京城

花園町臨濟寺に置き圓山太嶺師之が任に當るの外平壤牡丹臺永明寺（朝鮮寺）に伊藤宗喆師教會所を設け布教に努めつゝあると平安北道寧邊郡炒香山普賢寺（朝鮮寺）に教會所を設け古川大航師が鮮人布教の傍ら鮮人僧侶の教育に從事しつゝありしに過ぎず信徒の如きも未だ數ふるに足らざるも熱誠精神界の開發に努力したる結果漸く開教の根蔕を築き來たり本年三月古川大航師寧邊普賢寺を去つて京城に入り本宗の朝鮮布教を統一し朝鮮教育界を廓清するの目的を以て仲町に臨濟宗本山妙心寺派出張所を設け目下假寺院の建築中なり

天理教朝鮮布教之現情

天理教の朝鮮に布教を開始せしは明治三十五六年の頃にして僅々十年の短日月間に地方廳の認可を得て設置したる教會十二、出願及び其の手續中のもの二十余箇所其の管理所を京城吉野町一丁目に置き管理者櫟大教正松村吉太郎氏の代理として主事長大講義退役歩兵少佐從六位勳五等功五級佐藤松人氏統卒の下に布教しつゝある教師の數現今七十余名而して其の既に教化せられたる信徒の數は十三道に亘りて内地人八千二百、鮮人一万五千の多きに達し其の勢ひ駸々として恰も決河奔流の觀あり

天理教の一班

天理教の本祭主神は天理大神にして大神とは教祖が神明の御託宣に隨ひ造化の大原にして萬有の根本たる八百万神の中より靈德の最も顯著なる十柱の神を擧げ之を總稱し之を奉祀するに依る、天理大神は世界に對しては絶体無限の原動力を有せる宇宙の本体にして人類に對しては救濟恩寵の原動力を有せる客体なり一面より云へば万物の本原にして他面より云へば人類救濟の恩寵を垂れ王ふ慈悲の根本なり換言すれば漸く廣大無邊の力を有せる大神を主神として其の靈德妙用により一切の罪惡一切の禍害を除去し

救濟の恩寵を與へ先づ人心を改造し冷厳玉の如き神明賦與の本性に歸らしめ此世に甘露臺即ち極樂淨土を發現せむとせられたるが爲めに時代の要求に適合する處より顯著なる發展を爲しつゝあるは世人の等しく認むる處にして今や其の本部の下に十七大教會、五教會、百五十分教會、七百支教會、貳千五百宣教所參万五千の教師、五百五十余万の信徒を有し之が布教監督并に宗教行政所として朝鮮に布教管理所を置きたるの外内地府縣に十四教務支廳を設置しあり而して教職の階級は我が國固有の古典により其の採用法は天理教校、神宮皇學館、皇典講究所の卒業生若くは之と同等の資格を有するものを檢定試驗によりて採用し外人にして此の試驗に及第教師となりたるもの英米國に數名を出せり

天理教の事業として今現に經營しつゝあるものは教校一、中學校一、及び養德院なるものを設け同教婦人會員の優美なる事業として憐むべき孤兒の收容に努めつゝあり

金光教朝鮮布教沿革

金光教京城教會所は京城永樂町二丁目に在り明治四十三年十月の設立に係り全四十四年五月二日警務總監部の認可を得布教日尚淺きも信徒は日々增加し今日にては其基礎も確立し、專ら鮮人布教に盡力しつゝあり。金光教の獨立して一教派を開きしは明治三十三年にして、教祖金光大神の歸幽よりは今恰度三十年に相當す、神道各派中にして最も新しき宗教なれど教義の健實信仰の崇高なる二十世紀の文明と共に益々其光輝を發揚しつゝあり、其信仰の對象たる神は天地金乃神にして宇宙万有を主宰する絶對唯一の神なり、而して歴史的には日本古典の神を崇敬し國體を重んじ、日本國民の大自覺大意識を說く、本居宣長、平田篤胤、黑住宗忠等の說きたる大精神を宇宙の大神靈に結び付けて宗教の權威を遺憾なく發露せしもの是れ金光教の偉大なる特質なり、京城教會長を善積順藏氏と云ふ、前身は或新聞記者後ち辨護士として大阪、神戸地方に有名なりし人なり、鮮人布教專任としては大阪教會所出身の松村嚴氏近頃赴任し西部長與庫慶善宮に布教所を設け布教に從事しつゝあり

京城教會所布教現況

信徒數（內地人）約七百名　信徒數（鮮人）約八百名

毎月　一日、十日、二十一日　各夜（內地人）

陰曆、十四日、二十四日　各晝（鮮人）

右月例祭幷に説教

鮮人にして教師志願者五名目下本部教義講究所に派遣中所屬青年會員約一百名全婦人會員約八十名祭典樂としては金光教獨特の吉備舞樂を用ゆ尙近々鮮人信者增加の見込にて二三ヶ所取次所の必要を感じつゝあり

金光教布教一班の現況

金光教本部は備中國淺口郡三和村大字大谷に在り全國を十二教區に區分し各支部を設け教務を統轄せり（朝鮮は朝鮮布教管理所特設）全國に五百有余の教會所及び小教會所在り（他に大連、旅順、臺灣に三ヶ所あり）

信徒總數約百五十万人　教徒總數約三十万人　信者數約三百万人　朝鮮に於ては京城、仁川、龍山、釜山、平壤、の五ヶ教會所在り　本部には文部省認可中學校一、教師養成所として教義講究所及一般教會所の模範として大教會所あり　教職を分ちて十五級とす　大、中、少、教正各正、權、大、中、少、講義各正、權、訓導、權訓導教師試補管長は大教主とす尙布教機關として大教新報を毎月六回發行し青年會の機關として新光を毎月一回發行し會員に頒つ

京城諸官衙及學校

朝鮮總督府	倭城臺	朝鮮總督府農商工部	倭城臺
朝鮮總督府度支部	倭城臺	朝鮮駐劄憲兵隊司令部	大和町二丁目
朝鮮總督府警務總監部	大和町二丁目	朝鮮總督府通信局	北化門前通
專賣課司稅局出張所	貞洞	朝鮮總督府醫院	黃橋通
朝鮮總督府醫院附屬講習所	黃橋通	朝鮮總督府臨時土地取調局	貞洞
高等法院	貞洞	京城覆審法院	鐘路通一丁目
京城地方法院	鐘路通一丁目	朝鮮總督府營繕課	倭城臺
朝鮮總督府釀造試驗所	孔德里	京城郵便局	本町一丁目
羅島園藝摸範場	羅島	南大門停車場	御成町

南部警察署　本町一丁目
警官練習所　帶洞
京城府廳　本町一丁目
京城憲兵隊本部　光化門前通
兵器倉庫　新橋通
漢城衛生會齋洞
京城林業事務所　磚井洞
京城監獄舊監　鐘路通
京城第二憲兵分隊　光化門前通
京城府恩賜授產場　銅峴
京城稅關出張所　古市町
朝鮮騎兵隊（鮮人）　光化門前通
朝鮮總督府臨時土地調査局調査事務員養成所
朝鮮總督府臨時土地調査局員養成所
朝鮮總督府農商工部永樂町陳列所
米國總領事館　貞洞
露國總領事館　貞洞

北部警察署　鐘路通
京畿道廳　光化門前通
京城道水道事務所　光化門前通
京畿道警務部　光化門前通
日本赤十字社朝鮮本部　倭城臺
京畿道水道倉庫　永樂町
京城監獄　獨立門外
京城第一憲兵分隊　大和町二丁目
京城測候所　馬頭山
京城居留民團役所　本町一丁目
朝鮮步兵隊（鮮人）　詞壇防
光化門前
光化門通
永樂町二丁目
貞洞
本町二丁目
英國總領事館
清國總領事府

佛國總領事館　貞洞
獨國總領事館　貞洞
李王職　昌德宮內
景福宮　光化門
德壽宮　太平町
博物館　黃橋通
動物園　黃橋通
植物園　黃橋通
朝鮮總督府中學校　慶熙宮內
善隣商業學校　明治町一丁目
公立鐘路尋常高等小學校　鐘路
公立櫻井尋常小學校　櫻井町
私立京城女子技藝學校　米倉町
公立高等女學校　南山町三丁目
公立南大門尋常小學校　南大門通一百
公立日ノ出尋常高等小學校　日ノ出町
幼稚園　南山町三丁目

神社佛閣教會

大神宮　南山公園
京城本派本願寺　永樂町
曹洞宗兩大本山別院　若草町
臨濟宗妙心寺派出張所　仲町
本派本願寺朝鮮開教總監部　永樂町
大谷派本願寺別院　南山町
淨土宗開教院　大和町一丁目
護國寺（淨土宗）　旭町三丁目

臨濟寺（禪宗）　初音町二丁目
大峯山鳳閣寺（眞言宗）　旭町一丁目
朝鮮金光教支所　永樂町
京城基督教會　北米倉町
京城基督教會　大和町
天理教朝鮮布教管理所　吉野町

銀行會社

東洋拓殖株式會社　明治町三丁目
日韓瓦斯電氣株式會社　鐘路
百三十銀行京城支店　本町二丁目
漢城銀行　廣橋
朝鮮商業銀行　南大門通四丁目
仝　南大門出張所　南大門外
仝　本町出張所　本町六丁目
朝鮮勸業株式會社　旭町二丁目
日韓印刷株式會社　明治町三丁目
朝鮮銀行　南大門通三丁目
第一銀行京城支店　南山町三丁目
十八銀行京城支店　黃金町
漢湖農工銀行　南大門通四丁目
漢城手形組合　南大門通四丁目
韓一銀行　鐘路
朝鮮郵船株式會社　南大門通四丁目
京城起業株式會社　南大門通三丁目
朝鮮畜産株式會社　古市町

日韓禪寺（曹洞宗）　花園町
大乘教會（本派本願寺）　新橋通リ
京城メソジスト教會　旭町二丁目
京城日本基督教會　旭町四丁目
佛國天主教會　明治町二丁目

京城競賣株式會社　南大門通三丁目
三井物産會社出張所　本町一丁目
朝鮮實業會社　明治町一丁目
朝鮮煙草會社京城支店　旭町一丁目
日本種苗會社　御成町
明治屋京城支店　本町三丁目
土佐紙株式會社　南大門通三丁目
京城織紐株式會社
漢城美術品製作所
京城水産市場　相生町
土木用達合資會社　和泉町
朝鮮牛皮株式會社　小公洞
同志商會株式會社　梨峴
朝鮮製紙合資會社　青波町
廣業株式會社　大庫洞
運輸旅客合資會社　鐘路
日韓殖産株式會社　南大門通三丁目
內國通運株式會社支店　南大門驛前
三越呉服出張所　本町二丁目
東亞煙草總販賣所　明治町一丁目
仝　製造所　黃橋通
大日本麥酒京城出張所　南大門通三丁目
土佐勸業合資會社　南大門通三丁目
日韓雲母株式會社　旭町二丁目
朝鮮農業株式會社　永樂町二丁目
東光社煙草製造所　西大門外獨立館
京城十友合資會社　永樂町二丁目
東京建物株式會社京城支店　黃金町
京城果物合資會社
京城隆興株式會社　黃金町
漢城柴炭材木株式會社　毛橋通
汾院磁器株式會社
水陸通運合資會社　古市町

日清生命保險會社出張所　大和町二丁目
東京火災海上運送保險會社出張所南大門通二丁目
帝國生命保險會社出張所　南大門三丁目
愛國生命保險會社支店　大和町一丁目
神戸火災海上運送保險會社出張所明治町一丁目
横濱火災海上運送保險會社出張所
東洋生命保險會社支店　鐘路

商業會議所及新聞通信雜誌

京城日本人商業會議所　壽町一丁目
京城日報社　大和町一丁目
朝鮮新聞京城支社　長谷町
セウルプレス社　大和町一丁目
京城通信社　旭町二丁目
滿韓實業協會　大和町二丁目
朝鮮實業新聞　米倉町
京城商業會議所（鮮人）　鐘路
京城新報社　西小門通
每日申報社　大和町一丁目
日本電報通信社支局　旭町二丁目
朝鮮雜誌社
朝鮮通信社　南山町三丁目

內地新聞通信員及特派員

大阪每日新聞　東京日日新聞　東京時事新聞　大阪時事新聞　特派員　南山町丁目
東洋協會朝鮮支部　南山町　大和町一丁目
大阪朝日新聞　東京朝日新聞　日本通信　特派員　旭町一丁目　旭町一丁目

京城著名醫院商店及旅館

（イロハ順）

本町一丁目　飯塚齒科醫院　本町三丁目　伊藤組　本町二丁目　伊藤履物店
本町七丁目　伊藤喜一　長谷川町一丁目　伊藤出張所　南大門通二丁目　伊藤松壽堂
本町七丁目　一六競賣所　本町一丁目　市原六三郎　本町六丁目　市川時計店
南大門通二丁目　岩田寫眞館　新町三丁目　岩田酒造場　本町五丁目　岩見商店
壽町一丁目　井門樓本店　旭町一丁目　井上葬具店　御成町　井上履物店
本町五丁目　井上履物店　南山町二丁目　井上商店　太平町二丁目　井上茂一
旭町一丁目　井出商店　本町五丁目　泉商店　長谷川町一丁目　泉商會
御成町　稻葉旅館　竹園町一丁目　今西京城支店　本町一丁目　今村米店
櫻井町　池上醫院　本町四丁目　池田長兵衛　旭町一丁目　池田長次郎
御成町　池田商會　南山町二丁目　池田醫院　相生町　池尻林太郎
長谷川町二丁目　石橋利三郎　明治町二丁目　石川義夫　本町一丁目　石川淳夫
曙町　石川表具店　石田醫院　明治町一丁目　石田精肉店　明治町三丁目　石田直次郎
本町一丁目　石田醫院　大和町一丁目　爲春堂醫院　永樂町　馬場毛皮店
相生町　羽多野氷店　永樂町二丁目　播本紙店　本町四丁目　鶴屋履物店
明治町一丁目　初田紙店　本町七丁目　原雜貨店　本町一丁目　原口金物店
南山町四丁目　原金旅館　旭町一丁目　白水　竹園町二丁目　早川商店
本町二丁目　林田金次郎　光化門前通　濱洋服店　本町二丁目　橋口金物店
本町六丁目　橋詰吳服店　南大門通三丁目　箸方商店　南山町三丁目　巴城館ホテル

本町二丁目　日韓書房
本町二丁目　日希商會
本町六丁目　西崎嘉七
本町六丁目　堀雜貨店
長谷川町二丁目　本田商店
本町三丁目　本莊支店
本町一丁目　恒川京城出張所
四大門外　東光社
御成町　戸川醬油店
水標橋通　德永直藏
古市町一丁目　苦米地石炭店
永樂町二丁目　富安京城支店
本町二丁目　友田雜貨店
明治町二丁目　中央商會
米倉町　龍山精米所
本町五丁目　大上商店
南大門通三丁目　大野支店
本町四丁目　織居本店
東四軒町　岡野牧場
大和町二丁目　渡邊悅之輔

本町一丁目裏通　日本膳寫版京城支店
永樂町二丁目　二宮商店
西小門通　西崎源太郎
本町一丁目　堀尾潔
黃金町　本町組
水標橋通　堀內鐵工所
本町六丁目　堀佐賀店
明治町一丁目　東西煙草商會
永樂町三丁目　豐田由松
南山町二丁目　德島洋行支店
長谷川町一丁目　常滑商會
古市町　富田屋洋服店
吉野町　友田運送店
本町二丁目　中條運送店
本町五丁目　大石支店
本町六丁目　大塚陶器店
本町二丁目　大山慶次
本町六丁目　織居自轉車部
南大門通三丁目　岡野雜貨店
和田商店

明治町一丁目　日本セメント商會
古市町　四林商店
青波町　堀內商會京城支店
明治町一丁目　細川牧場
本町一丁目　本間醫院
明治町一丁目　別府組
曙町一丁目　東京暮田支店
初音町一丁目　土井指物工場
旭町三丁目　豐商會
本町二丁目　東京旅館
本町三丁目　陶榮商店
本町八丁目　友谷金物店
永樂町二丁目　巴屋
本町八丁目　竹東材木店
明治町一丁目　大橋組
明治町一丁目　大塚京城支店
南大門通　大島良吉
南大門通三丁目　織居樂器部
本町一丁目裏通　奥津金太郎
和田醫院

旭町三丁目　開進亭
南大門通二丁目　川西雜貨店
明治町二丁目　河村國太郎
大和町二丁目　金井醫院
南山町四丁目　金澤旅館
南山町四丁目　花月樓
本町五丁目　梶原末太郎
本町二丁目　淀嶋子店
明治町一丁目　吉岡商店
獨立門通二丁目　吉門商會
本町三丁目　田中時計店
南山町二丁目　橘屋
本町二丁目　高木德彌
南山町四丁目　鷹取塾店
南山町三丁目　竹原商店
ソンタク、ホテル
眞洞
本町一丁目　津村兄弟商會
本町三丁目　辻清金物店
壽町三丁目　中井商店
南大門通二丁目　中村友次郎

旭町二丁目　中川支店
本町七丁目　川口雜貨店
本町五丁目　河又藥局
壽町一丁目　金田寫眞館
本町三丁目　龜屋商店
長谷山町二丁目　梶川商會
南山町二丁目　米井出張店
南大門通三丁目　吉川好松
明治町一丁目　田中洋服店
本町三丁目　田中支店
本町六丁目　高井醫院
壽町三丁目　高木二樂堂
本町二丁目　多々見醫院
日ノ出町　巡部喜三郎
本町五丁目　土谷洋服店
南大門通四丁目　辻屋本店
本町二丁目　根岸運送店
古市町　中尾刀劍店
明治町三丁目　中村齒科醫院
本町六丁目

南山町三丁目　川西薪炭商店
御成町　河村運送店
明治町一丁目　カヂマ商會
本町六丁目　金崎仁三郎
明治町一丁目　唐川吳服店
太平町二丁目　神田組
新橋通　漢城美術品製作所
本町二丁目　橫山商店
南大門通三丁目　吉野兄弟商會
本町一丁目　田中履物店
本町四丁目　田代宗四郎
明治町一丁目　高雄支店
南大門通二丁目　高瀨支店
永樂町二丁目　玉屋染物店
明治町二丁目　瀧川銃砲店
明治町一丁目　鶴田醫院
米倉町　辻本嘉三郎
南大門通二丁目　鍋島商店
古市町　中根商會
御成町　中村運送店

本町五丁目　中村政次郎
南大門通四丁目　中山秀一
本町二丁目　夏川小間物店
明治町三丁目　村上醫院
南大門通魚市場前村田商店
本町三丁目　海市本店
本町四丁目　久保田虎介
本町一丁目　熊平支店
西小門通　楠正吉
本町五丁目　山枝吳服店
古市町　山下商會出張所
本町一丁目　大和軒
本町六丁目　やぶそば
本町四丁目　前田酒店
本町四丁目　田林次郎
旭町一丁目　丸正藥房
南大門通二丁目　松原筆藏
本町四丁目　松尾元之助
南大門通二丁目　牧野豐七
旭町二丁目　京城印刷所

本町一丁目　中村醫院
本町二丁目　中江勝次郎
南山町二丁目　櫛崎齒科醫院
南山町三丁目　村上寫眞館
長谷川町一丁目　上田清
御成町　農林商會
明治町一丁目　桑原商店
本町五丁目　釘本藤次郎
明治町一丁目　山邑京城支店
本町一丁目　山岸天祐堂
南山町二丁目　山本旅館
南山町三丁目　大和商會
長谷川町一丁目　安盛孫兵衛
御成町　前田金物店
明治町一丁目　丸一吳服店
本町五丁目　丸正材木店
明治町二丁目　松岡醫院
南山町二丁目　松尾金
本町三丁目　增田三穗
南山町三丁目　京城醫院

本町三丁目　中村金物店
壽町三丁目　中島醫院
南大門通三丁目　睦商店
永樂町二丁目　村島商店
壽町一丁目　浦尾旅館
旭町四丁目　野田齒科醫院
古市町　熊野商會
本町二丁目　日下部喜太郎
本町四丁目　山口吳服店
御成町　山城商會
本町五丁目　山本村太郎
本町二丁目　山玉足袋店
太平町一丁目　前嘉商店
古市町　待井精米所
旭町三丁目　丸二商會
南大門通二丁目　丸天商店
東四軒町　松尾牧場
明治町一丁目　牧野豐田
南山町三丁目　京城ホテル
本町六丁目　京城勸農團

北米倉町　京城婦人病院
南大門通二丁目　京城寫眞館
永樂町二丁目　古道角次郎
永樂町二丁目　藤原京城支店
蓬萊町　肥塚正太郎
旭町一丁目　小林材木店
太平町一丁目　近藤謙助
本町二丁目　江里口紙店
本町二丁目　惠阪吳服店
南大門通三丁目　丁字屋洋服店
太平町一丁目　相川商會
本町四丁目　赤帽子印舖
旭町二丁目　旭石鹼製造所
本町二丁目　佐藤牧商店
西小門通　澤山商會支店
本町一丁目　三巴商會
本町四丁目　贊化堂古城藥局
南大門通三丁目　喜多金光堂
御成町　協同組支店
本町四丁目　木島時計店

黃金町　高等演藝館
蓬萊町　京城精米所
長谷川町一丁目　福岡自轉車店
永樂町二丁目　藤宮國太郎
明治町一丁目　小林民次郎
壽町三丁目　齋座
本町四丁目　近藤骨董店
南山町四丁目　江川菓子舖
本町三丁目　圓城吳服店
旭町二丁目　蝶々
明治町三丁目　阿部華人
蓬萊町　荒井牧場
明治町一丁目　旭商會
本町一丁目裏通　佐藤病院
太平町一丁目　榊原商店
南大門外　三巴精米所
本町四丁目　贊化病院
旭町二丁目　金水館
本町一丁目　北內紙店
明治町市場　京屋

東大門內　京城植物園
琵琶洞　京城製粉所
本町四丁目　富士ノ里茶舖
南大門通二丁目　藤木支店
古市町　小宮山運送店
旭町三丁目　越田彌三郎
本町四丁目　近藤貴生堂
長谷川町二丁目　江川活版支店
會典洞　帝國馬車商會
南山町二丁目　天眞樓旅館
本町一丁目　青木堂
南山大門通三丁目新井藥房
旭町一丁目　安東病院
本町二丁目　佐野彥金物店
本町四丁目　眞島寒水堂
本町四丁目　三共商會
紅葉町　鬼頭石材販賣部
南大門通　共益社
本町一丁目　北村靴店
南山町三丁目　掬翠樓

旭町一丁目　九州旅館　本町一丁目
光化門前通　明月樓　本町三丁目
御成町　三好市太郎　本町四丁目
南大門通二丁目　美濃久紙店　旭町二丁目
旭町三丁目　十全病院　南大門通二丁目
米倉町　注進內齒科醫院　古市町
本町四丁目　日之出商行　本町五丁目
本町三丁目　平田善太郎　大和町一丁目
大和町　姬野醫院　本町六丁目
本町三丁目　森久商店　本町三丁目
壽町一丁目　清力京城支店　永樂町三丁目
本町四丁目　青々園茶舖　本町五丁目
西小門通　菅醫院　旭町一丁目

龍山之部

（諸官衙）

朝鮮駐劄軍司令部
朝鮮駐劄軍陸軍倉庫
朝鮮駐劄軍兵器支廠
第八師團司令部

金化堂時計舖　壽町二丁目　有明樓
明治屋支店　本町一丁目　三輪商會
三田政商店　本町五丁目　三浦天龍堂
柴山國太郎　本町一丁目　シノサキ商店
島屋　黃金町　首藤支店
新宮商行　長谷川町二丁目　廣江商會
平戶支店　吉野町　平田運送店
平山牧場　本町四丁目　百福號
森川商店　東大門外　森質店
森安商店　本町六丁目　勢一商店
清華亭　南山町二丁目　精陽軒
關繁太郎　本町六丁目　末森富良
鈴木外科醫院

漢江通一丁目
漢江通五丁目
漢江通五丁目
櫻田町

朝鮮駐劄軍衛戍病院
朝鮮駐劄軍軍樂隊
朝鮮駐劄軍衛戍監獄
朝鮮總督府鐵道局
勸業模範場龍山支場
龍山憲兵分隊
龍山警察署
煉瓦及土管工場
印刷所
京城居留民團役所龍山出張所

水道町
櫻田町
小松通
鐵道構內
錦町
漢江通一丁目
舊龍山
麻浦
元町二丁目
老松町

（學校及寺院）

龍山尋常高等小學校
龍山尋常高等小學校
本派本願寺（元町）
大谷派本願寺布教所（榮町）

漢江通
元町二丁目
龍山寺（榮町）
瑞龍寺（青波）

（諸會社）

龍山水產株式會社（川端町）
朝鮮製紙合資會社（青波町）
十八銀行龍山出張所（旭橋通）
內國通運株式會社龍山出張所（鐵道構內）
韓一銀行東幕出張所（麻浦）
韓城銀行東幕出張所（麻浦）
百三十銀行龍山出張所（元町三丁目）

著名醫院及商店

元町二丁目　佐藤病院
錦町　松村醫院
元町三丁目　土永呉服店
鐵道構內　波邊與三郎
元町一丁目　上野政次郎
老松町　十字病院
老松町　尾崎金物店
元町一丁目　八田利三郎
元町三丁目　兼古禮藏
漢江通二丁目　八木三次郎
旭橋通　和歌之家
老松町　木村定次郎
元町二丁目　日韓組
元町二丁目　林禪三
錦町　三亞商店
元町三丁目　西村利平
大島町　大陽旅館
龍山停車場前　藤野秀吉
大島町　松本彌三
榮町　木村百藏
元町四丁目　德久米藏
瓦町　田淵藥店
榮町　エム兄弟寫眞館
若松町　岸商會
元町　村井甚七
漢江通二丁目　同仁醫院
鐵道管內
元町一丁目　清水材木店
錦町　平山牧場
漢江通二丁目　大林組
京町　灘屋酒店
漢江通二丁目　三木熊之助
元町一丁目　八景園
元町三丁目　佐田文吉
榮町　鰐部源吉
岡崎町　南洋運送司
旭橋通　桃山印刷所
漢江通二丁目　深田根治院
柳町　堀田松太郎
元町一丁目　波邊五郎
元町三丁目　蒲原芳太郎
元町一丁目　保高德松
漢江通三丁目　津村精造
三巴商會支店　山手町
岡崎町　馬木勇吉
三泰洋行出張所

仁川之部（諸官衙）

仁川稅關　港町一丁目
觀測所　山根町
京城監獄仁川分監　內面內洞
航路標識管理所　支那町
仁川府廳　仲町一丁目
仁川居留民團役所　仲町一丁目
專賣局朱安出張所　朱安面
京城地方法院仁川支部　京町
陸軍運輸部仁川出張所　支那町一丁目
度支部稅關工事部仁川出張所　港町三丁目
朝鮮總督府鐵道局計理課仁川倉庫　花房町二丁目
支那町二丁目
清國理事府　仲町一丁目
仁川警察署　山根町
仁川水道事務所　英國領事館　各國居留地

神社寺院及學校

仁川實業學校　京町一丁目
仁川尋常小學校分教場　山根町一丁目
大神宮　日本公園
本派本願寺出張所　寺町二丁目
公立仁川尋常高等小學校　寺町一丁目
仁川居留民團立高等女學校　山根町

大谷派本願寺別院　寺町一丁目
高野山遍照寺　宮町三丁目

銀行會社

朝鮮銀行仁川支店　本町一丁目
日本醬油株式會社　京町四丁目
仁川水產株式會社　海岸町二丁目
十八銀行仁川支店　本町一丁目
英米煙草株式會社仁川支店支那町
朝鮮商業銀行仁川支店　海岸町二丁目
仁川米豆取引所　海岸町二丁目
ライジンダサシ石油會社仁川倉庫　万石町
三井物產會社仁川出張所　海岸町二丁目

曹洞宗本山布教所　花町二丁目
妙覺寺　寺町二丁目

東亞煙草株式會社出張所　宮町一丁目
仁川電氣株式會社　松坂町二丁目
大阪商船株式會社仁川支店　海岸町三丁目
百三十銀行仁川支店　本町二丁目
スタンダード石油會社支店山手町
仁川穀物協會　海岸町二丁目
宅合名會社仁川支店　敷島
內國通運株式會社仁川出張所　花房町一丁目
朝鮮新聞社　濱町一丁目

著名醫院及商店

順序不同

本町三丁目　德本定吉商店　本町一丁目　村谷吉藏本店　本町一丁目　村谷勘商店
本町四丁目　秋田商會　新町一丁目　美濃谷榮次郎金物店本町二丁目　自神洋行

仲町一丁目　大和組　本町一丁目　朝日組
新町一丁目　高野周三郎　宮町三丁目　萬石酒造場
濱町三丁目　仁川製鹽所　濱町　濟物浦製鹽所
濱町二丁目　土井鐵工所　本町三丁目　慈音組
海岸町二丁目　田中佐七郎　花町　龍榮堂支店
宮町三丁目　杉目商店　宮町二丁目　山本回漕店
本町　松尾庫三　濱町三丁目　共盛社
粗硯驛前　宮崎彌之助　海岸町二丁目　東鄕旅館
支那町一丁目　八田利三郎　仲町二丁目　井上建具店
本町三丁目　中村齒科分院　濱町二丁目　樋口平吾
京町一丁目　濟物精米所　萬石町　仁川鐵工所
海岸　旭屋旅館　本町四丁目　力武精米所
仲町二丁目　糸岐商店　本町二丁目　木村商會
新町二丁目　笠原勝藏　高野山下　小倉病院
仲町　川畑病院　新町　田中病院
寺町　久木田醫院　宮町　淺井病院
本町　佐藤病院　山手町二丁目　加來商店
精養軒　山手町二丁目　仁川ホテル
宮町三丁目　八阪　仲町二丁目　東洋軒
本町四丁目　山中商店　本町四丁目　貞安倉吉

福島組　本町四丁目
高野支店　松坂町一丁目
築地活版所　濱町四丁目
鈴木七星堂藥房　萬石町二丁目
山崎商店　宮町一丁目
原田寅吉　本町四丁目
白石旅館　本町四丁目
池畑支店　寺町
福田寫眞館　宮町三丁目
加賀田芳太郎　本町一丁目
高杉醬油釀造場　濱町一丁目
山口陶器店　寅町一丁目
田中真助　花町一丁目
中川槌松　宮町
高木病院　仲町
松本病院　本町
荒井組出張所　海岸町一丁目
うろこ　仲川一丁目
一富士　宮町三丁目
鈴木倭商店　本町三丁目

海岸通
本町四丁目
本町二丁目
濱町一丁目
宮町
新町二丁目
宮町一丁目
海岸通
仲町一丁目
本町三丁目
仲町三丁目
本町四丁目
紐幌驛前
京町二丁目
本町三丁目
本町四丁目
新町一丁目
仲町三丁目
山根町二丁目
本町一丁目

丸三組
東京堂本店
竹田津三平
橋本石炭部
伊福商店
古谷萬吉
谷本商店
大阪商船仁川支店
水津旅館
津江米作
春武商店
八丈支店
芦浦運送店
玉椿商店
世昌洋行
千鳥正宗仁川支店
近江屋呉服店
末永呉服店
深見醸造場
慶田組

山手町二丁目
本町四丁目
新町二丁目
濱町二丁目
蔦石町
京町一丁目
寺町
仲町二丁目
本町四丁目
濱町一丁目
京町二丁目
花町二丁目
本町四丁目
本町二丁目
海岸町一丁目
仲町二丁目
仲町二丁目
本町四丁目
京町一丁目
支那町

仁川病院
川井田運送店
泉商會出張所
片山商店
三重製鹽所
安盛出張店
長野寫眞館
川野商店
藤富國仁川出張所
朝鮮製塩所
河内商店
伊藤善七
藤村硝子商店
久野勝平
堀商會廻漕部
井上呉服小間物店
山本呉服店
南方商店
本莊仁川支店
木村組

本町四丁目
海岸町二丁目三井物産仁川出張所
京町四丁目
宮町二丁目
仲町
京町四丁目
海岸町三丁目
宮町一丁目
松坂町二丁目
京町一丁目
新町二丁目
支那町
宮町二丁目
京町一丁目
本町四丁目
本町四丁目
本町一丁目
宮町二丁目
海岸町

阿波屋金物店
林田支店
中野谷商店
須田六四郎
矢野獸醫院
協同組
東亞煙草仁川販賣所
豊田商店
赤松商店
山本鐵工所
廣安號運送店
前田忠次商店
鬼頭商店
河野本店
横山呉服雜貨店
松屋呉服店
浦崎回漕店
小林倉二郎商店
庄野支店

本町三丁目
仲町三丁目
宮町二丁目
宮町二丁目
京町二丁目
宮町二丁目
宮町一丁目
寺町二丁目
本町

增本茂三郎商店
陶榮支店
青島商店
三横商店
高雄仁川支店
村上貞市
藤秋商店
古木藤吉
北島藥店

本町海岸通
本町四丁目
花房町二丁目
寺町一丁目
本町四丁目
山根町二丁目
本町四丁目
仁川驛前
本町三丁目

土肥福三郎商店
小谷嘉吉商店
中條運送仁川支店
河添商店
吉金喜三郎
倉重嘉藏商店
日下部支店
稻田旅館
丸一呉服店

本町一丁目
本町一丁目
本町
濱町二丁目
海岸町
宮町二丁目
新町三丁目
花町一丁目

内海淑郎商店
藤木利右衛門
坂田支店
大二商會
高形昇
原金旅館
安保富藏商店
新見藥房
坂倉支店

京仁通覽終

明治四十五年六月廿五日印刷
明治四十五年六月廿九日發行

定價六十五錢

著者　京城旭町一丁目二百八十六番戶　福崎毅一

發行兼印刷者　大阪市西區江戶堀下通三丁目百十四番屋敷　中村三一郎

印刷所　大阪市西區江戶堀下通三丁目百十四番屋敷　三交堂印刷所　電話西四三四一番

不許復製

朝鮮發賣所

京城本町二丁目（電話堂四五番）　日韓書房　朝鮮振替口座一一五番　東京振替口座九〇五九番

京城本町四丁目（電話二〇九番）　町田本店　振替口座京城九九番　振替口座京城一〇四番

仁川港本町二丁目　町田支店　電話四五番　振替口座京城九三番

京城本町三丁目　海市商會本店　電話二五〇番　振替口座京城四八番

最上

醤油

醸造元

朝鮮京城南米倉町

村田源次郎謹醸

發賣元

京城旭町一丁目

日ノ丸魚市場前

村田商店

電話三五三番

◀ルイタス式スクボ▶

弊店は他店より二割强安價に調製致し地質等は凡て精々吟味急速の御用にも相應じ申候

京城壽町一丁目(商業會議所前)

洋服裁縫　町田商店

▲御用命の節は御一報次第店員參上仕可候

▲地方よりの御注文は凡て卽時調製代金引替小包郵便を以て御送附申上候

其他仕立替等は裁縫及附屬品等精々入念に調製仕可候

後二

營業種目

石炭各種
平壤無烟炭
常滑產土管
セメント
コークス
米穀

京城長谷川町一丁目

西崎修商店

內外洋紙問屋

京城南大門通四丁目

中山洋紙店

電話壹參四壹番

後三

小兒科專門

京城大和町（京城日報社前通）

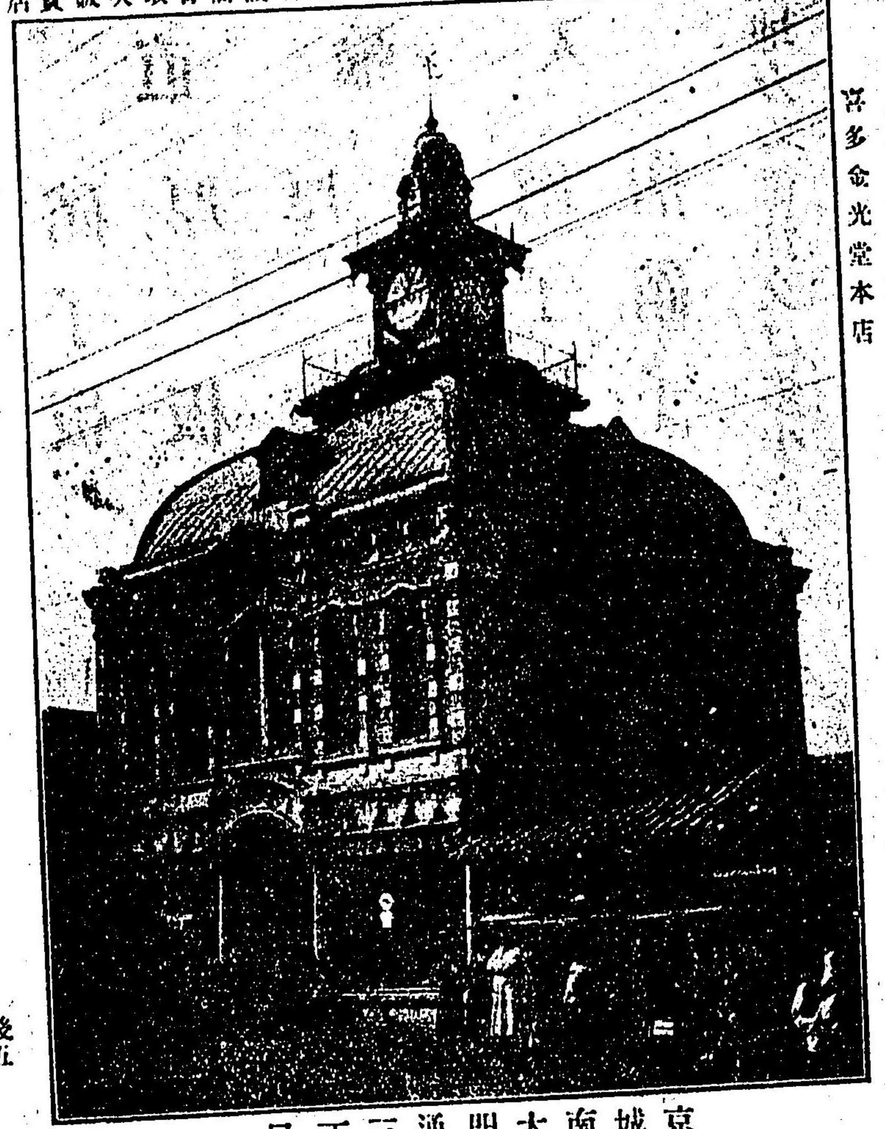
姬野小兒科醫院

電話二〇六八番

後四

貴金屬類卸小賣店
英國自轉車特約販賣店
日本蓄音機商會取次販賣店

ダンレ懷中時計會社朝鮮代理販賣店
ウオルサム懷中時計朝鮮特約販賣店
アンソニヤ置時計朝鮮特約販賣店
明治掛置時計朝鮮代理販賣店



喜多金光堂本店

京城南大門通三丁目
喜多金光堂本店　時計卸小賣商
電話（一〇一五）番　略稱（キ）又ハ（タキ）

仁川本町三丁目
喜多金光堂支店　時計卸小賣商
電話（七〇五）番

後五

硝子板
厚板
厚鏡
直輸入
舶來パテ
硝子切
摺硝子

地方の御注文は多少に不拘迅速送荷可仕候

仁川本町四丁目
藤村本店
長電話一一二番
振替京城三〇六番

京城南大門通三丁目
藤村支店
電話一四一五番

後六

仁川本町
合資會社
秋田商會本店
電話一七三番

秋田商會營業部
電話一七三番

秋田商會船舶部
電話一七三番

秋田商會鐵物部
電話一一六六番

秋田商會荷捌部
電話七五〇番

京城古市町
秋田商會京城出張所
電話一一二〇番

龍山元町三丁目
秋田商會龍山派出所
電話四一八番

海州龍塘浦
秋田商會出張所

海州東門通
秋田商會出張所

後七

北清輪船公司代理店
三共合資會社朝鮮代理店
明治生命保險株式會社代理店
横濱火災海上運送信用保險株式會社代理店
内外滊船取扱運送業
石炭コークス販賣並委托賣買業

仁川本町二丁目
仁和洋行　竹田津三平
電話八五〇番
振替口座五二〇番

後八

本領

世界各國の珍味佳肴を貯藏し常に時潮に後れず新奇の品々を輸入し極上の味は決して不日出でず最良品を明治屋即ちこれ明治屋店の賣品は堅く相守り居り候間御座候

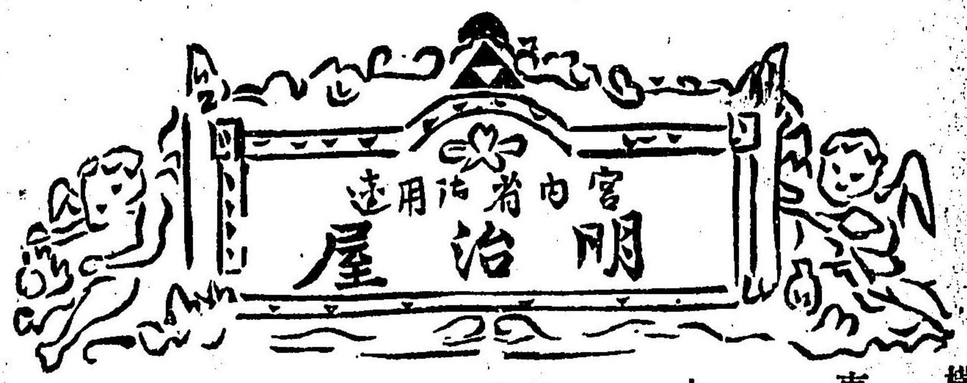
配達

市内は如何程僅少の品も早速御注文に致候小方は遠隔の地は郵便法に依り其他迅速に可申上候

切手

商品は切手を最も意匠に凝し上品にて贈物に御便利の御座候且つ切手は明治屋本支店共通に下記の各店に於て何れ御引換可申上候

株式會社



横濱市本町一丁目　横濱本店　電話三〇番四二四番二〇〇五番二四四六番
東京市京橋區銀座二丁目　東京支店　電話京橋特長一三九六番　京橋一三九七番　振替口座東京六六三一番　京橋一三九八番
大阪市平野町四丁目　大阪支店　電話本局九八六番　長本局九八七番　振替口座大阪二四九八九番　長本局九八八番
京都市下京區三條通河原町東入中島町　京都支店　電話二七五四番
神戸市元町一丁目　神戸支店　電話五八九二〇三番　振替口座大阪二四〇三番
門司西本町三丁目　門司支店　電話特長二六三番　振替貯金口座福岡八二〇九九〇番
朝鮮京城本町三丁目　京城支店　電話特長二一二番　振替口座朝鮮一七二二四四番

後九

京城南大門通四丁目

漢城手形組合

電話五二七番

理事　佐藤龜久次

水原城内

水原支所

電話九番

主任　蜂谷昌藏

後十

石炭、木材、セメント、機械類及電信電話材料
三榮棉布及小巾木棉、銑鐵、亞鉛板、金物類燐寸、麥粉
バインアプル（ライオン印 サルタン印）滿韓一手販賣

三井物産株式會社

京城出張所
電話一一一六（石炭掛並に雜品掛、宿直用）
電話七二四（機械係、棉布係 出納用度）
電話一二一九（所長室 通信庶務掛）

仁川出張所
電話六二番

釜山出張所
電話六五五番

後十一

資本金拾貳萬圓

紙類製造販賣

朝鮮製紙合資會社

朝鮮京城府青葉町

龍山電話二五番

後十二

營業種目

煉瓦
家根瓦
植木鉢

製造販賣

朝鮮永登浦東仲町

長島綱吉

電話五番

後十三

營業目的

▲皮革製造販賣
▲皮革原料及製品販賣
▲革具布具製造販賣
▲櫛木山營林事業

朝鮮永登浦

朝鮮皮革株式會社

電話永登浦 三六番 五五番

後十四

會席

御料理 蝶々

京城旭町二丁目

仕出しわ迅速に御用命に應じ
山遊御辨當わ精々勉强可仕候

後十五

紙函製造業

●高尚優美堅固而適實用

紙函用紙販賣
各種板紙特約店

鼎商會營業科目

各國洋紙　ボール紙
名刺用紙　舶來白ボール

●薄利勉強專一而應貴需

卸　小　賣

京城長谷川町二丁目

電話九百十八番

後十六

最上山十印醬油

其質濃厚
其味甘美

量多樽堅
四德備矣

醸造元
千葉縣銚子町
岩崎重次郎謹醸

朝鮮一手特約店
京城本町一丁目
三巴商會
電話三七〇三　八五番

後十七

民製煙草の覇王

口付
紙巻煙草

鹿島

貳拾本入
定價金四錢

朝鮮大邱
前之園

製造元

京城明治町一丁目
商店

發賣所

京城本町六丁目
前之園出張店

後十八

質屋業

京城水標橋通一丁目
堀佐營業所

電話六三九番

後十九

寫眞半額

フラタイプ
白金紙
ピーオーピー

京城長谷川町一丁目朝鮮銀行横
田中寫眞舘

京城和樂園
御料理
席かし
高田家
電話九三七番

活版印刷

大阪市西區江戸堀下通三丁目
三交堂印刷所
電話西四三四一番

活版印刷

332
300

キリンビール

アトウオーター博士
世界中最も簡單にして滋養ある
食物と何と問ふ人あらば我
パン、バタ及びビールは
如之ものなしと答へむ

宮内省御用達
株式會社 明治屋
横濱 東京 京都 大阪 神戸 門司 京城

332
300

026398-000-5

332-300

京仁通覽

福崎　毅一／編

M45
ADD-0050